

# 大川市議会第3回定例会会議録

令和5年6月23日大川市議会議場に出席した議員及び付議事件の説明のため出席した者の氏名並びに付議事件の内容は次のとおりである。

## 1. 出席議員

|    |      |     |       |
|----|------|-----|-------|
| 1番 | 永尾学  | 8番  | 龍誠一   |
| 2番 | 宮崎貴仁 | 9番  | 内藤栄治  |
| 3番 | 古賀寿典 | 10番 | 川野栄美子 |
| 4番 | 馬淵清博 | 11番 | 遠藤博昭  |
| 5番 | 永島幸夫 | 12番 | 永島守   |
| 6番 | 宮崎稔子 | 13番 | 平木一朗  |
| 7番 | 西田学  | 14番 | 箴島かおる |

## 欠席議員

なし

## 2. 地方自治法第121条の規定により出席した者

|                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 市長                             | 倉重良一  |
| 統括副市長                          | 橋本浩一  |
| 特命副市長<br>(兼)大川の駅整備振興課長         | 森寿貴   |
| 教育長                            | 内藤妙子  |
| 会計管理課長<br>(兼) 社会計務課<br>(兼) 税務課 | 川野文裕  |
| 人事秘書課長                         | 仁田原敏雄 |
| 総務課長<br>(併)選挙管理委員会事務局長         | 田中準一  |
| 企画課長                           | 野中貴光  |

|                        |   |   |    |
|------------------------|---|---|----|
| 大川の駅整備振興課主幹            | 甲 | 斐 | 衛  |
| 大川の駅整備振興課主幹            | 岡 | 美 | 詠子 |
| 市民課長                   | 中 | 島 | 聖佳 |
| インテリア課長                | 永 | 島 | 潤一 |
| 企業誘致推進室長               | 鶴 | 恭 | 太  |
| 農業水産課長<br>(併)農業委員会事務局長 | 宮 | 崎 | 和彦 |
| 都市計画課長                 | 龍 | 健 | 司  |
| 学校教育課主幹指導主事            | 藤 | 岡 | 忠司 |
| 生涯学習課長                 | 井 | 口 | 秀成 |

3. 本議会の書記は次のとおりである。

|         |   |   |     |
|---------|---|---|-----|
| 議会事務局長  | 和 | 田 | 孝紀  |
| 議会事務局書記 | 龍 | 輝 | 洋   |
| 議会事務局書記 | 松 | 家 | 奈美子 |
| 議会事務局書記 | 高 | 口 | 絵美  |

4. 付議事件

1. 一般質問

1. 議案に対する質疑

(議案第34号、第35号)

1. 委員会付託

## 5. 一般質問通告

| 発言<br>順位 | 議席<br>番号 | 氏 名     | 質 問 要 旨   |
|----------|----------|---------|---|
| 6        | 14       | 箆 島 かおる | 1. 「通信アプリによる電子申請」について<br>2. 「大川Rebuilding（リビルディング）事業」について                             |
| 7        | 4        | 馬 淵 清 博 | 1. 佐賀空港への「オスプレイ等の配備計画」に対する<br>大川市の対応について  |
| 8        | 8        | 龍 誠 一   | 1. 陸上自衛隊輸送機オスプレイの佐賀空港への配備計<br>画について<br>2. デジタル田園都市国家構想交付金について<br>3. 「大川の駅」について、計画について |
| 9        | 12       | 永 島 守   | 1. 倉重市政、今後の優先政策課題について   |

---

### 午前9時 開議

#### ○議長（遠藤博昭君）

皆さんおはようございます。各位の御参集、感謝申し上げます。

出席議員は定足数に達しておりますので、ただいまから本日の会議を開きます。

昨日に引き続き一般質問を行います。この際、お願いいたします。

一般質問の発言時間につきましては、答弁を含め60分程度でお願いしたいと思いますので、この点、執行部におかれましても何とぞ御協力のほどをお願いいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症対策を講じている状況のため、一人の質問者が終わるとに議場内の換気やアルコール消毒を行うため、10分程度の休憩を取りますので、御了承のほどをお願いいたします。

それでは、順次発言を許します。まず、14番箆島かおる君。

#### ○14番（箆島かおる君）（登壇）

皆様おはようございます。議席番号14番、無所属議員の箆島かおるでございます。通告に従いまして、通信アプリによる電子申請と大川Rebuilding（リビルディング）事業について質問いたします。よろしくをお願いいたします。

つい先日、6月10日付の有明新報に、「大川市が通信アプリで電子申告」との見出しで記事が掲載されておりました。記事によれば、市役所の窓口に直接出向くことなく、通信アプリのLINEを使って、住民票や戸籍謄本などの証明書の郵送による発行手続や子育て応援給付金の申請手続などを行えるなど、大川市民の利便性の向上のため、書かない役所、行かない役所の実現を目指すとの趣旨の記事がございました。

2月には、九州で初めてとなる出産・子育て応援給付金の手続を電子申告で受け付けたところ、2か月で約250件の申請があり、現在はほぼ全ての申請書が電子申請を活用しているというのも記事の中にありました。

私は、倉重市長が1年くらい前からDX、デジタルトランスフォーメーションの活用を表明されておりましたので、その成果が市民に見える形で具現化したものだと大いに評価いたします。

私も早速、電子申請とはどのようなものかと、必要もないのに住民票を取り寄せてみようとする自分のスマホでトライしてみました。最初は、専用のアプリをインストールするものと思い込んでおりましたので、大川市の公式サイトにアクセスして探しましたが、それらしいものが見つかりません。やっと新着情報の一覧から「LINEで各種証明書を申請できるようになりました」というのを見つけて、クリックして、やっとそのサイトに行き着いたと思ったら、QRコードと友達追加のマークが画面に表示されました。友達追加を押せばよかったのですが、LINEを始めた頃、友達の自動追加を選んでしまい、その必要がない人までLINEでつながってしまうという失敗をしてしまっていたのと、大川市と友達になるってどういうことという違和感があったので、QRコードを利用しようと思ったのですが、自分のスマホに表示されたQRコードをどうやって読み取っていいのか分からず、その方法を調べるなどして、やっと住民票の発行申請までたどり着き、申請の3日後に私の手元に住民票が郵送で届きました。この間、30分以上もかかってしまいました。正直な感想は、これなら市役所まで行って窓口で発行してもらったほうが早くて楽だったのかもと思ってしまいました。

この通信アプリによる電子申請制度は、給付金申請などの申請手続のためだけに市役所まで行って申請を行うなどには大いに便利なのでしょうが、市役所の窓口に出向いて申請すれば数分で証明書などを受け取れるような業務では、その証明書が必要なときが1週間くらい先の期限の余裕があるとき以外は、住民の利便性はそれほど高くはないと思います。

それにしても、このような市役所に出向かなくても諸手続きができる通信アプリによる電子申請の制度の適用、運用を始められることは、住民の選択肢を広げ、住民の利便性を高める措置として大いに評価いたします。

その一方で、昨年12月から可能となった大川市でのコンビニ交付では、住民票と印鑑証明のみがコンビニでも取得できますが、大川市では納税証明や戸籍謄本などはコンビニからは取得できません。この通信アプリによる電子申請制度を立ち上げられたことにより、大川市のコンビニ交付から戸籍謄本の取得の実現が遠のいてしまわないかと懸念しております。

コンビニ交付に関しましては、私が16年前、議員となって初めての2007年6月の定例会での一般質問で、住民票の交付などの大川市の窓口業務に関して、コンビニを利用することができないかとの質問をして以来、その3年後の2010年10月に、3つの自治体による初めてのコンビニ交付が始まり、現在では日本全国の約70%に当たる約1,200の自治体でコンビニ交付が実現しております。大川市においても、やっと昨年12月からコンビニ交付が実現しております。この間、15年間、3代にわたる歴代の市長にコンビニ交付の実現を要望してまいりましたが、倉重市長の代となってやっと実現していただきました。

このようなことから、コンビニ交付に対する思い入れが人一倍強いせいでもあるのですが、コンビニ交付を実現している自治体の60%を超える自治体を実現しているコンビニでの戸籍謄本の取得が、大川市ではできないというのが残念な思いもしております。

市長は3月の定例会で、今年度もLINEサービスなどを活用して、書かない、行かない市役所を目指して、DX、デジタルトランスフォーメーションを強力に進めていくとの所信を表明されております。

そこで、お尋ねしますが、市長は今後、通信アプリによる電子申請とコンビニ交付による戸籍謄本などの取扱いなどの関連を含めてどのように進められるおつもりなのか、御所見をお伺いします。

それから、もう一つの質問でございますが、大川Rebuilding（リビルディング）事業についてお伺いいたします。

倉重市長は「大川の駅」の整備の経済効果を高めるために、新たな地方創生事業として今年度から大川Rebuilding（リビルディング）事業をスタートさせると表明されております。

今年度3月の定例会での市長の所信表明で、様々な魅力を持つ筑後川リバーサイドの観光活性化による人の流れの創出、小保・榎津藩境の町並みを活用したインバウンド施策を通じ

たまちの元気の創出、インターネットビジネスの戦略化支援による稼ぐ力の創出という3つの柱を軸に、3か年で様々な課題解決に取り組み、大川市のブランド力向上、産業の活性化を目指すとされています。倉重市長は現在、5年後の「大川の駅」実現に向けて懸命に努力されております。私は現在の大川市の衰退を食い止めるためには、あつれきを恐れて漫然と前例どおりの政策運営を進めていくよりも、大川市の発展のために目標を定めて政策を進めようとしている倉重市長の「大川の駅」構想に賛同いたします。

私はさきの4月に行われた市議会議員選挙でも、「大川の駅」実現に賛成の立場を鮮明にして個人演説会など訴えてきたのですが、あくまでも私の個人的な肌感覚でいうと、大川市民の多くの方が、多額の予算を使って「大川の駅」を実現しても失敗したらどうなるんだと反対意見の人が多く感じました。私のスタッフの方でも、票を減らすから「大川の駅」には触れないほうがいと何となく注意されました。実際それで今回の選挙で票を減らしてしまった一因ではないかとも思っております。

私は「大川の駅」に反対される人の多くは、情報不足による無理解がその要因だろうと思います。そこで、「大川の駅」の実現で大川市をどのように変えようとしているのか、「大川の駅」の整備の経済効果を高めるための大川Rebuilding（リビルディング）事業でどのようなことをされようとしているのか。この事業はまだスタートしたばかりで、個別具体的に何をどうするかまではこれからの課題で、発表する段階ではないのですが、市長の忌憚のない見解をお伺いします。

あとは自席にて質問いたしますので、よろしく願いいたします。

**○議長（遠藤博昭君）**

市長。

**○市長（倉重良一君）（登壇）**

皆様おはようございます。それでは、箴島議員の御質問にお答えをいたします。

まず、通信アプリによる電子申請についてでございますが、国におきましては、目指すべきデジタル社会のビジョンとして「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会 ～誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化～」が示されております。

このような中、大川市といたしましては、証明書類等の取得申請について、これまで仕事の都合などで来庁できない方につきましては郵便請求という方法がございましたが、国が示

したビジョンを踏まえ、申請手段の選択肢を増やすという意味合いもあり、デジタルを活用する方向けにスマートフォンなどからアプリを活用して簡単な操作で請求できる電子申請を昨年4月に導入いたしました。今月からはLINE電子申請を本格導入することで、さらなる利便性向上を図っております。

LINE電子申請は、実証実験として今年1月に大学生等応援臨時給付金、2月に出産・子育て応援給付金を開始いたしました。特に、議員おっしゃいましたように、出産・子育て応援給付金につきましては、96%以上の方がLINEから申請をいただいております。利用者からは、赤ちゃんを連れて出るのは大変なので、来庁せずに申請できるのはうれしい、紙に書いてポストに入れる手間がなくなった、必要書類をスマホのカメラで撮影するだけで終わるので便利といった声をいただいております。

DXは一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができるということが重要となります。デジタルが得意な方はLINEを利用し、デジタルが苦手な方につきましては窓口での交付をお願いしておりますが、遠方にお住まいや仕事の都合などで夜間しか時間が取れない方につきましてはコンビニ交付や郵便請求など、利用される方に合った方法での活用をお願いいたします。

今後は、通信アプリを利用される方が簡単に利用できるようなマニュアルの整備等を図ってまいりたいと考えております。

次に、戸籍関係のコンビニ交付についてお答えをいたします。

本市では、昨年12月から住民票の写しと印鑑登録証明書のコンビニ交付を実施しておりますが、戸籍関係書類につきましては、戸籍法の改正に伴い、各種社会保障手続においてマイナンバーを利用することで戸籍謄抄本の省略が可能となってくることや、国において本籍地以外の市町村での戸籍謄抄本の発行が可能となる広域交付システムが今年度中に運用開始される予定であることから、現時点では導入しておりません。今後、広域交付の本格運用後の状況を見ながら判断してまいりたいと考えております。

続きまして、大川Rebuilding（リビルディング）事業についてお答えをいたします。

この事業は、昨日、宮崎稔子議員にもお答えをいたしました。大川市の産業・観光政策の様々な課題を洗い直し、情報化、国際化、デジタル化が急速に進むビジネス環境の変化に素早く適応していくもので、足腰の強い持続可能な経済成長につないでいくものであります。

これから始まります「大川の駅」という宝箱の整備と時を同じくして、この大川Rebuilding

(リビルディング) 事業はまさに、宝箱に詰める宝を市民の皆さんと一緒に探して磨き上げる作業にほかなりません。

それでは、大川Rebuilding (リビルディング) 事業における私の思いを大きく3つ申し上げます。1点目は新たなマーケットへの船出、2点目は価値の発見と発信、3点目は持続可能性と迅速性を持った組織構築であります。

まずは、新たなマーケットへの船出であります。これまで本市はインバウンド対応施策につきましてはほぼ未開拓ではありますが、ウイズコロナとなり、世界中から日本を目指して観光に訪れる外国人は増加していくフェーズに入っております。外国人観光客の皆様は、清潔さや治安のよさといった、我が国では普通のことに魅力を感じられているようであります。先日、大川にもゴールデンウィークを挟んで米国西海岸から7人の作家の方々に来ていただきましたが、3週間滞在される中で、大川をととても気に入ってくれました。今後、佐賀空港の滑走路延長が期待される中、インバウンドへの対応を強化していきたいと思っております。また、新たな領域はインバウンドだけではなく、拡張が続くインターネットの世界のインバウンドであるウェブインバウンドにも活動領域を広げてまいりたいと思っております。これらと同時に、市内事業者の皆様には、例えば、家具という分野での事業活動から、ペット、家財IoT、ゲームなどといった分野での事業活動へ拡張を図ったり、D2Cの取組を重点化することで利益率を高めたり、企業として成長していかれる姿を想像しております。

次に、価値の発見と発信であります。米国西海岸の作家の方たちは、クリークに囲まれた田園風景や夕日の沈む筑後川、ごみが落ちていない町並みといった、私たちには当たり前の日常風景に大変感動されておりました。この地域で生活していると当たり前のことでも、外から見ると大きな価値のあるものを探して、磨き上げて発信することが必要であります。例えば、佐賀県小城市の小城ようかんでありますが、「ogi cube」というネーミングで小さくカットしてキューブ状にして包装を変えたところ、生産が追いつかないほど売上げが上がっております。こうした成功事例がすぐ近くであるわけですから、私たちも見習っていかなければなりません。

最後に、持続可能性と迅速性を持った組織構築であります。これまで申し上げましたことを市民の皆様と共に行っていくのに、その中心で触媒として、また発信者として機能する活動体は、持続可能性と迅速性を持たなければなりません。持続可能性を担保するには収益性を確保し、しがらみやあつれきから切断され、迅速に意思決定される活動体でこそ目的が達



成されるのではないかと考えます。

このようなイメージの中で大川をリビルドすれば、人、物、金の流れを増幅させて、いわゆる関係人口を増大させることができると確信しておりますし、冒頭で「大川の駅」を宝箱と表現いたしました。が、「大川の駅」は大川の大きな玄関口とも表現でき、人、物、金を大きく吸収し、また発信していくような場所にしていきたいと思っております。

この大川Rebuilding（リビルディング）事業は大きくて複雑なプロジェクトとなりますので、できるものをできるところからやり続ける、現代風に申せば、アジャイル型のプロセスとしてまいります。例えば、小保・榎津藩境の街並みなど歴史的資源を活用した観光まちづくりに関しまして、5月に株式会社つぎと及び株式会社つぎと九州と連携協定を締結し、現地調査、物件調査などに着手しているところであります。また、ウェブインバウンドに関しましては、大川市公式オンラインショッピングサイトに海外利用者向けのインターフェースを設けようと検討しております。

一方で、筑後川リバーサイドの観光活性化などについての具体的な取組は、これからでございます。大川Rebuilding（リビルディング）事業は全体として3か年の計画とはしておりますが、先ほども申し上げましたとおり、アジャイル型のプロセスで取組をスピードアップしてまいります。

そして、この事業は、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用しておりますので、3か年という年限を区切ってはおりますが、それ以降も我がまち大川のまちづくりの屋台骨として、また、「大川の駅」にお越しになるお客様のおもてなしの基本理念として、大川Rebuilding（リビルディング）事業のエッセンスを継承し、模索と挑戦をし続けてまいりたいと考えております。

以上、答弁漏れ等ございましたら、自席よりお答えいたします。

○議長（遠藤博昭君）

14番。

○14番（箆島かおる君）

御答弁ありがとうございました。電子申請についての御答弁では、戸籍法が改正されたことにより、今までは役所に提出しなければならない戸籍謄本や抄本が提出しなくてもよくなるからとか、戸籍に関する書類を取り寄せる必要がなくなり、もし必要となっても、最寄りの市町村の役場で交付できるからコンビニ交付の必要性がなくなるのではとのお答えだった

かと理解いたしました。

法務省の戸籍情報システムを全国の自治体とネットワークでつないで、本籍地以外の自治体からも戸籍データを見られるようにすることで、本籍地以外の人と結婚する際などにも戸籍に関する書類を提出することなく婚姻届を提出することができるようになるだろうということだと思います。しかし、その際、どうしても本人確認の必要があるので、それはマイナンバーカードで本人確認を行うと思います。マイナンバーと各自治体の住民基本台帳のデータをひもづけしているのが、コンビニ交付のシステムを担っている地方公共情報システム機構、通称でJ-LISのネットワークシステムです。法務省の戸籍情報システムでも、各自治体の戸籍情報とマイナンバーのひもづけをする必要があります。

そこで、お尋ねですが、法務省の戸籍情報システムはJ-LISのシステムと連携して戸籍情報とマイナンバーをひもづけしているのでしょうか、お尋ねいたします。J-LISのシステムと連携する必要があると思いますが、いかがでしょうか、お答えをお願いいたします。

○議長（遠藤博昭君）

中島市民課長。

○市民課長（中島聖佳君）

基本的には、ひもづけということを進められておられるということで理解しております。

○議長（遠藤博昭君）

14番。

○14番（笹島かおる君）

ありがとうございました。法務省の戸籍情報システムとJ-LISのシステムが連携しているのであれば、法務省の新たな戸籍情報のネットワークシステムと大川市がつながれば、大川市の戸籍データもコンビニ情報端末から取り出すことが容易になるだろうと私は思います。世界の中で戸籍制度があるのは日本だけだとも言われておりますので、いずれ戸籍制度そのものがなくなるのかもしれませんが、相続のときなどに血縁関係を公証する制度として残っていくものと私は思っております。

いずれにしても、死亡保険金の受け取りなどで民間の保険会社などに戸籍謄本などの提出はこれからも求められると思われしますので、役所の窓口が開いていない時間帯や土日など休

日に戸籍関係の書類がコンビニまで行けばその場で取り寄せられる制度は便利な制度だと思っておりますので、大川市でも実現してほしいと改めて要望いたします。

では、次の大川Rebuilding（リビルディング）事業の質問に移らせていただきます。

倉重市長のお答えでは、大川Rebuilding（リビルディング）事業は3つの柱で推進していくと言われました。具体的にはどの部署の所管で進めていかれるのか、お伺いします。

○議長（遠藤博昭君）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光君）

お答えいたします。

昨日の宮崎稔子議員にもお答えしておりますけれども、この大川Rebuilding（リビルディング）事業は行政のみでは行えないと考えております。そこで、各業界で活躍されております市民の皆様と関係課で構成する実行委員会及び4つのワーキンググループを組織しまして進めてまいりたいと考えております。

実行委員会につきましては、4つのワーキンググループを統括し、4つのワーキンググループは、現在、仮称ではございますけれども、1つ、市場開拓戦略ワーキング、2つ、藩境のまちワーキング、3つ、リバーサイド観光ワーキング、4つ、食ブランドワーキングで、実行委員会及び4つのワーキンググループで委員を各10名前後、計約50名の委員と関係課で取組を分担して進めていくことを想定しております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭君）

14番。

○14番（箴島かおる君）

御答弁ありがとうございました。ちょっと私が勘違いしたのかな。今のは、市長は3つとおっしゃいました。課長は4つとおっしゃいました。その違い。

○議長（遠藤博昭君）

森副市長。

○副市長（森 寿貴君）

先ほど市長のほうに御答弁いただきました3つというのは、この大川Rebuilding（リビルディング）事業を進めていく上で大切にしたい考え方が3つだと。具体的にワーキンググ

ループを組織する、そのワーキンググループの数が4つなんだということでございます。

○議長（遠藤博昭君）

14番。

○14番（箴島かおる君）

今、的確なお答えありがとうございました。御答弁ありがとうございました。役所特有の縦割り行政に陥らないように工夫がなされているようでございますが、それぞれの部署が緊密に連携しながら、「大川の駅」ができてよかったと大川市民が実感できるようにプロジェクトを進めていただきますようお願いいたします。

それから、先ほども森副市長が3つから4つということのお話をちゃんとしていただきましたけれども、森副市長にお尋ねします。森副市長は「大川の駅」構想の実現のために、倉重市長のたつての要望で中央省庁のキャリア官僚から大川市の副市長に就任されたと私は理解しておりますが、大川市に來られて副市長に就任されてからまだ3か月足らずですが、大川市に対する印象などを含めて、「大川の駅」整備の実現に向けてどのような構想をお持ちなのか、所信を伺います。よろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭君）

森副市長。

○副市長（森 寿貴君）

御質問ですので、私のほうから答えさせていただきます。

まず、「大川の駅」というものを広域的な産業・観光の振興拠点とするためには、開業前の今の段階から本市の産業・観光振興施策の思い切った再構築に取り組む必要があると考えております。この大川Rebuilding（リビルディング）事業に取り組む中で、開業後の「大川の駅」が果たすべき役割についても、より高い解像度で見えてくるように思います。

まず、市長のほうから、新たなマーケットへの船出との考え方に対する答弁がございました。副市長としての着任後、過去の当市の産業振興施策について勉強する中で、昭和60年12月に大川市木工振興対策調査研究専門委員会のほうに取りまとめられました「大川インテリア産業シティへの道」と題する報告書を拝読しました。この中で、家具、建具を中心とした単一型産業から、インテリアの全てを含む総合産地とした複合型産地形成を目指すべきとの示唆がありました。昭和末期から平成までの当市の産業振興施策の根幹にはこちらの示唆のほうがあり、一部の事業者などにおきましては空間のデザインとかプロデュースを受託する

事業に新たに取り組まれるなど、事業領域の拡張がなされてきたものと承知しております。

市長が答弁された新たなマーケットへの船出は、令和という新時代ならではの事業領域の拡張を再びみんなで力を合わせて達成しようというものと受け止めており、その実現のために力いっぱい努力したいと考えております。

また、2つ目に、価値の発見と発信との御答弁のほうもございました。私も着任後、まだ3か月足らずでございますけれども、この地域での暮らしに少しずつ慣れつつありますが、米国西海岸の作家の皆様と同様、皆様にとっては当たり前のことでも、感動するような発見が幾つもございます。例を挙げさせていただきますと、たそがれどきの干潟の息をのむような美しさだったりとか、クツゾコの煮つけや刺身、マジックの唐揚げ、エツの刺身、有明海のノリなどの有明海の恵みのおいしさ、私の知人が大川に来訪した際にはお連れしたいなというふうに思うような場所がたくさんできつつあります。

その一方で、残念に思うようなこともありまして、例えば、通勤路沿いの水路、こちらはなかなかきれいとは言い難く、今朝も草取りをしている方もいらっしゃいましたけれども、せっかく散歩道なのにもったいないなと思うようなこともあります。

この地域にあるものの磨き上げと発信に当たっては、外から来た者としての目線と人的なネットワークをしっかりと生かしていきたいと考えております。

最後に、持続可能性と迅速性を持った組織構築との御答弁がございました。こちらについては、現状の産業・観光振興施策上の問題意識のまさに裏返しの部分だと解釈しております。関係者のほうを交えてしっかりと現状分析した上で取り組むべき課題であると考えております。

締めくくりとなりますが、この地域をよくしたいと願い、真摯に努力をし続けていけば、少しずつでも大川に人と金は集まってくると信じております。

総務省の諸先輩方からいただいた訓示の中で、地方赴任においては、その地域にほれ、そこで任された仕事にほれるべしというものがございます。私自身もこの地域を愛し、努力をひたむきに続けられている方々と組織の垣根を越えて仕事をするにとっても喜びを感じております。まだ始まったばかりですが、今後もこの初心を忘れずに取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

14番。

○14番（箴島かおる君）

ありがとうございます。まだ3か月しかたっていらっしやらないのに、大川をしっかりと見ていただいて、本当にありがとうございます。

大川がよそから来られた方たちの目にどのように映るかというのは、本当に外から来られた方しか分からないと思うんです。日頃から言っていた、ああ、ここはきれい、汚い、何とかというのは、遠方からお見えなされた方たちの本当の真っすぐなお答えだと思っております。私もそれはやっていかないといけないと思っております。大川市民の皆さん方もそういうことをしっかりと覚えていらっしやる方はたくさんいらっしやいますし、大川が次世代の子どもたちにどういうふうに残していけるかというのも、やっぱりそういった気持ちがないと、やっぱりその地域を愛さないと皆さんの思いが届かないと思います。

本当に今の副市長のお答え、とてもうれしく思っております。日頃から私も常々それは思っておりまして、何か涙が出てくるような気持ちでおります。

壇上でも申し上げましたけれども、「大川の駅」に対して大川市民の厳しい目が多いのは、大川市の情報発信のまずさにも原因があるのではと私は思っております。まだ決定事項ではないから言えないということではなく、多くの情報を発信して、広く市民の意見を聞き入れ、柔軟に政策を変更するような、住民の参加意識を高めるような方策も必要だろうと思います。

そのような意味からも、来る7月には倉重市長が大川市民を対象に、「大川の駅」や大川 Rebuilding（リビルディング）事業についての講演をワークピアで行われると聞き及んでおりますが、言ってよございませうか。いいですか。いや、私は大いに発信すべきだと思います。これからもそのような情報発信の機会を数多く設定されることを切望いたします。

大川市に明るい未来が来ることを願ひまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（遠藤博昭君）

ここで暫時休憩いたします。

なお、開催時刻は9時50分としますので、よろしく願ひいたします。

午前9時39分 休憩

午前9時50分 再開

○議長（遠藤博昭君）

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、4番馬淵清博君。

#### ○4番（馬淵清博君）（登壇）

皆さんおはようございます。議席番号4番、馬淵清博でございます。議長のお許しがありましたので、通告に従い、一般質問をさせていただきます。

今回の質問は、佐賀空港へのオスプレイ等の配備計画に対する大川市の対応はということで質問をさせていただきます。

まず、今年4月6日、沖縄県の宮古島沖で発生した陸上自衛隊のヘリコプターによる航空事故、また、6月14日に発生しました岐阜市にある陸上自衛隊の射撃場での発砲事件、痛ましい事故・事件が相次いで起きております。国を守るんだと、崇高な意思を持って自衛隊に入隊されたと思いますけれども、坂本陸将をはじめ、このたび事故・事件で亡くなりました隊員の御冥福をお祈りいたしますとともに、けがをされました隊員の一日も早い回復を願うものであります。防衛省は原因の究明、再発防止に全力を尽くして取り組んでいただきたいと思っております。

私は基本的に、国防、国を守る、生命、財産、領土、領海、領空、守る、そういう防衛省、自衛隊の意思に関しては必要だと理解をいたしております。また、国を守るという重要な役割は各地方で共に分かち合う問題ではないかというふうに思っているところです。

今から遡ること9年前になります。2014年7月、当時の防衛大臣が佐賀県知事に佐賀空港の自衛隊利用、オスプレイ配備計画を要請されました。その後、様々な動きがありましたが、なかなか進展せず、昨年、2022年11月1日に佐賀県と佐賀県有明海漁協が自衛隊との空港共用を否定する公害防止協定を見直したことにより急速に進展、今年5月1日、空港の西側にある漁協所有の土地31ヘクタールを、国への売却を正式決定いたしました。その後、6月に、2回にわたり地元への工事説明会も行われました。去る6月12日、防衛省は2025年6月までに駐屯地の完成を目指し、工事に取りかかっております。

先日、私も現場へ視察というか、見に行ってきました。壮大な土地で、まだ始まったばかりでしたので、外側にフェンスが張ってあって、工事車両二、三台が行き来しているという状態でありました。先日から土砂の搬入が始まったと聞いております。

柳川市は2014年に佐賀に要請があった当初から、有明佐賀空港との合意書の変更に当たると、そして、配備をされればオスプレイの飛行ルートに当たる可能性が高いということで、

すぐさまオスプレイの対策チームというのを立ち上げられました。設立された当時から現在まで、情報はオープンに公開されております。

私は2016年、平成28年12月に、このオスプレイ配備計画について一般質問をいたしました。当時、倉重市長は就任されて2か月目でしたけれども、当時も大川市ではオスプレイの配備に関する情報等は何ら公表がされておりましたので、一般質問でも、一日でも早い情報開示をしたらどうかということを求めましたけれども、そのときの答弁が、行政としては、いたずらに市民を不安がらせるのではなく、正確な情報を正確かつ適切なタイミングで出していくことが必要だろうと考えていますということで答弁をされております。その後、早いもので6年が過ぎてしまいましたけれども、その間、市民に情報の開示、報告がされたことはなかったと記憶いたしております。

今年3月の定例会で倉重市長は、2月27日の佐賀市長のオスプレイ配備の受入れ容認、それを受けまして、配備については安全性の確保や環境面への配慮など、地域住民の方々への不安解消に努めることは国の責務だと考えているというふうに答弁をされました。そして、5月1日に正式に佐賀空港へのオスプレイ等の配備が決定したところです。それを機に、適切なタイミングということをおっしゃってあったので、そのときが適正なタイミングと判断されたのか、急遽、6月13日に九州防衛局を訪問されたと記憶しております。

今回訪問をされ、伊藤局長への申入れ内容等はある程度報道でされておりますので、承知をいたしております。ですけれども、改めてこの議場で、市長が伊藤局長と会談されました正確な内容、情報をお聞かせいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

壇上での質問は終わります。詳細につきましては質問席から行いますので、どうぞ御答弁よろしくお願いいたします。

**○議長（遠藤博昭君）**

市長。

**○市長（倉重良一君）（登壇）**

それでは、馬淵議員の御質問にお答えをいたします。

佐賀空港から直線距離で最短で約5キロに位置します本市には、集落地までの距離がほぼ同じでありながら、民間機が上空を飛行する柳川市とは異なり、空港の用途変更の際に協議を定める合意書等がございません。このため、国への要望や情報提供に関しては、こちら側から積極的にアクションを起こしていくことが求められます。



私は市長になって以来、自ら九州防衛局に出向き、防衛局長との面談を重ねてまいりました。今月13日には伊藤局長との面談を行い、オスプレイを含む自衛隊機の飛行時の騒音、きめ細やかな情報提供の2点につきまして、現時点で懸念している旨、申入れを行ってまいりました。

現在、防衛省は17機のオスプレイを千葉県の木更津駐屯地に暫定配備しております。移設配備期限を令和7年7月に控え、佐賀空港へのオスプレイ等配備計画は今後、新駐屯地建設に向け工事が本格化してまいりますし、それに伴い、市民の関心も高まっていくということが予想されます。本市といたしましては、今回の九州防衛局訪問において構築した連絡体制を通じ、また、これまで同様、県、近隣自治体と連絡を密にして、引き続き情報の収集に努めてまいります。

以上、答弁漏れ等ございましたら、自席よりお答えいたします。

○議長（遠藤博昭君）

4番。

○4番（馬淵清博君）

御答弁ありがとうございました。今、市長が答弁されましたとおり、騒音の懸念や情報提供を申し入れられたということを言われましたけれども、新聞報道でそこは承知をいたしています。

まず最初、騒音について、騒音の懸念ということでお伺いしたいと思いますけれども、民間航空機が上空を飛ぶ場合、航空機騒音防止法というのがあるふうに伺っております。それは自衛隊にも適用されるのでしょうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（遠藤博昭君）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光君）

お答えします。

環境省が定めるもので、民間の航空機も自衛隊の航空機もその中に入っております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭君）

4番。

○4番（馬淵清博君）

ありがとうございます。

その騒音ですね、騒音評価指標、Lden、普通デシベル、デシベルと言いますが、それで読みますと、57デシベル以下でなければならないというふうに航空機騒音防止法では定められるというふうに書いてあります。そのほか、騒音が高ければ高いほど、地元へ、窓ガラスを二重にしたりとか、そういうふうな形で、航空機騒音防止法による援助とかをしなければならぬふうになっております。

市長が騒音の懸念ということを言われました。2016年、平成28年、私が質問した当時の11月にオスプレイがデモフライトをしております。そのとき、柳川の両開地区では最大70デシベルを観測したと伺っておりますし、大川市では筑水園のほうで50デシベルだったというふうに記憶をいたしております。

騒音に関しては、飛行条件、風向きとか天候、気象状況や飛行高度などが関係しているとは思いますが、市長も認識されておるとおり、騒音が懸念されると。その懸念されるという意味は、大川市が飛行ルートになる可能性があるということを確認された上での騒音の懸念ということで局長とお話をされたのか、お伺いしたいと思います。

**○議長（遠藤博昭君）**

野中企画課長。

**○企画課長（野中貴光君）**

お答えします。

今月13日の防衛局への申入れの際にも、佐賀空港から近い柳川市の集落までの距離と、大野島、紅粉屋地区についてもほぼ変わらない距離ということをお伝えし、騒音についての懸念を表明しております。

自衛隊機がどこを飛ぶかというのはなかなか防衛局としては言えないということでしたけれども、実際飛ばないと分かりませんので、そういったことも含めまして、今後、防衛局とは連絡を密にしていくことを確認させていただいております。

安全性や騒音に関して市民の皆様が不安に感じることをないよう、今後も議会の皆様と共に、これまで以上に九州防衛局や県、近隣自治体と連携を密にして情報収集を行って、必要に応じて要望等を行ってまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

**○議長（遠藤博昭君）**

4番。

○4番（馬淵清博君）

ありがとうございました。

ここに佐賀空港へのオスプレイ等の配備に関する今までの経緯についてということで、これは今年、柳川市で5月30日でしたか、説明会がありました。そのときの資料でございます。その中に――これは中に今回も書いてありますけれども、平成28年8月18日に柳川市が質問されたとき、ヘリコプターはあくまで有視界飛行だと、操縦士の目を見た範囲で飛ぶということが限定だというふうにされておりますし、その上、あくまでも一例として申し上げれば、自衛隊機が佐賀空港から大分県の日出生台演習場、そこに向かう飛行経路を想定した場合、例えば、空港離陸後、筑後川を北上して、幹線道路に沿って進路を変え、八女インターチェンジから高速道路沿いに北上し、久留米インターチェンジから筑後川沿いを東に向かい、市街地を迂回するような飛行をして日出生台に向かうパターンが考えられるというふうに返答されております。

今回のこの経緯についても同じように返答がしてございます。要するに、早く言えば、絶対大分の演習場に行くときは大川市上空を飛んで行くと。だから、それを踏まえたところで騒音の懸念とか言われたのではないかというふうに考えているところです。そこはしっかりと認識をされて、騒音対策とか、まだ飛んだわけではございませんけれども、今後、飛行の安全性、それから、もしよければ、訓練の形態により大川市上空を飛ぶ可能性がある場合は大川市のほうに報告を願うとか、そういうふうな形ででも情報をいただければ、なおかつ騒音に対する安全性とかにも考えられるのではないかとということで考えております。

それから次に、柳川市のほうでは今、有明海の環境のことがかなり気にされております。大川市としては、今回の質疑応答で有明海の環境等とかには言及はされましたでしょうか。

○議長（遠藤博昭君）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光君）

中身のほうはちょっと申し上げられませんが、若干の面談は――面談というか、若干の中身について説明させていただいております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

4番。

○4番（馬淵清博君）

ありがとうございます。若干の——中身は言えないということですけど。

有明海の環境といえば、宝の海と言われていました有明海ですけども、農林水産省の、平成7年になります諫早湾干拓事業で潮受け堤防が閉じられて、その後、有明海は一変したと。ノリは不作になる、そして、タイラギ、アサリ等は全滅というふうな形で、当時、有明海の環境が変わったと言われております。徐々に回復傾向にありますけれども、今回の配備計画で、有明海の環境ということは今はっきり中身は言えないということでしたけれども、私が知る限りでは、防衛省のほうとしてはノリ関係、海関係にも結構気を遣ってあるというふうには認識をいたしております。

工事が始まりましてけれども、ノリの漁期に当たる9月から3月は生コンクリートを使用した工事は行わないとか、工事の濁水が直接有明海に流出するのを防ぐために調整池を作るとか、そういうふうな形で、またそれから、自衛隊の活動に伴う今後の排水等にも、佐賀県や福岡県の水産関係の技術センター等に助言をいただきながら詳細な検討を進めているというふうに文書にも載っておりますし、それは今後、有明海のことで、実際運用されてみてからまた問題が出てくるかもしれませんけれども、そういうふうな形で防衛省としては努力してあるということは認識をいたしております。

先ほども言いましたけれども、先月30日、柳川市民文化会館で住民説明会が行われました。私をはじめ、数人の大川市の方が来場してあったふうに記憶いたしております。柳川市は、そのときの資料にもありますけれども、これにより説明会は行われました。常日頃、九州防衛局に対して多くの情報提供を求めて、市民に公開してあります。大川市はあんまり公開というのがなされていないふうに私は記憶をいたしておりますけれども、今まで防衛省に対してどういうふうな対策を取って、オスプレイの佐賀空港配備に関する対策をどういうふうな形で防衛省に申し入れられておりましたか。今までの経緯をお伺いしたいと思います。

○議長（遠藤博昭君）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光君）

お答えいたします。

倉重市長就任以降、5回、九州防衛局へ訪問しております。

平成29年11月2日には三貝局長と面会をしております。平成30年10月2日には、当時の小野寺防衛大臣宛てに要望書の提出をしております。平成31年5月30日には廣瀬局長と、令和3年8月6日には現局長の伊藤局長と面談をされております。今年、今月に入りまして、6月13日、同じく伊藤局長へ口頭で要望を行っている状況でございます。

以上でございます。

**○議長（遠藤博昭君）**

4番。

**○4番（馬淵清博君）**

ありがとうございます。

新聞報道にも書いてあります、今回の訪問では円滑な情報提供を申し入れましたとのことですが、大川市は防衛局との間で安全を担保する文書の締結や、住民説明会の要請は考えていないと報道をされております。そのことについてお伺いをしたいと思いますが。——すみません。抽象的な質問になりますけれども、住民説明会の要請は考えていない。私が思うに、柳川で住民説明会がありましたけれども、ああいうことがあれば、まず、反対の質問者が多いということがありますし、柳川では質疑応答の途中でどんちょうが閉められたということで、また炎上いたしまして、8月にまた説明会を行うというふうに伺っております。

今まで、私、情報開示がかなり少なかったように思うんですけれども、今日、市長がお話しされたこと、これは議事録としてきちっと文章に残ります。こういうふうな話を、どういうふうな要望をしたと、報道の媒体ではなくて市長から、市からきちっとした文書にして、公示等をお願いしたいと思うところです。説明会を行わないということになれば、説明会以上の説明、文書による市民に安心をさせるような表現で開示をしていただきたいと思います。その点につきお伺いしたいと思います。

**○議長（遠藤博昭君）**

野中企画課長。

**○企画課長（野中貴光君）**

お答えいたします。

これまで柳川市、佐賀県佐賀市の動きが主なものでございました。それぞれの各自治体のホームページで公開されております。本市としましては、平成30年10月2日付の要望書につきましては、平成30年11月1日号の市報に掲載をしているところでございます。

既に佐賀空港へのオスプレイ配備が決定され、工事も進めておられますので、情報公開についても今後、議会の皆様と共に、九州防衛局等と連携、連絡を密にしまして、必要に応じて行ってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭君）

4番。

○4番（馬淵清博君）

ありがとうございます。簡潔な質問でございましたけれども、私が考えます意見を述べさせていただきますと思います。

6月12日から、言われましたとおり工事も始まりました。2025年、令和7年6月までの完成を目指す。24時間で工事を行うとか、日曜、休日でも作業の予定だとか、1日100台程度の工事車両が運行すると。佐賀県の佐賀空港周辺では大変な工事になるというふうに住民の方も考えておられますし、大川市には直接の影響はないかもしれませんが、工事が始まっておりますけれども、現在佐賀空港を利用されている方、それから、佐賀方面への交通のインフラとか、その他多くの問題が出てくるのではないかと感じているところです。

それから、駐屯地が完成して今度運用が始まれば、駐屯地完成後、佐賀県や福岡県への先ほど言いました騒音、有明海の海水、そういう環境問題、実際出てくると思います。それから、そこには約700名から800名ほどの自衛隊員が配備されると伺っております。その家族等の生活圏の問題も出てくるかと思っております。そして、今度訓練が始まれば、訓練の実質の形態、飛行ルートに、先ほど申しましたけれども、そういう関わる問題がまた出てくると思います。また、佐賀空港は国際空港ということで、先ほどもお話がありました、500メートルの滑走路の延長計画もあるそうです。

課長も答えられましたけれども、福岡県で一番佐賀空港に近い大川市といたしましては、今からの対応が一番重要な段階だと私は考えております。市長は情報通でございますし、市長が知り得るあらゆる角度からの情報収集を行われまして、市長の、今後、大川市民に対して説明責任を果たしていただきたいというふうに考えているところです。

簡潔な質問でありますけれども、今後の考え方を市長のほうに発言を求めまして質問を終わりたいと思っておりますので、どうぞ市長、よろしく願いをいたします。

○議長（遠藤博昭君）

市長。

○市長（倉重良一君）

壇上で申し上げましたように、いわゆる佐賀空港そのものに関しては用途変更の際に協議を求める合意書等がない中での対応ということでございますので、就任来、毎年のように防衛局に参っているということでございます。

情報提供ということでおっしゃいましたけれども、現実、基本的には、通常の訓練であれば大川市内を飛ばないというようなことで伺っておりますが、先ほど議員おっしゃったように日出生台に行く際は何らかの目印が要るということでもありますけれども、当然、ヘリコプターにせよ、オスプレイにせよ、上空を飛ぶものの音とかというものは、その天候や、風向きや、高度、高ければ高いほど音は聞こえにくいということもあろうというふうに思います。

また、オスプレイばかり注目をされますけれども、数としては17機が予定をされておりますが、これはまだ決定ではありませんけれども、その先には、今、目達原に配備されているアパッチ等の配備も当然、国防全体を考えればそういうものもあるのではないかという、現時点でのそういう未確定、不確定な中ではありますけれども、今やはり、防衛局に対して、実際飛び出したらどういふ影響が起こるかというのはありますよねということで、今の段階ですと訪問して、我々の思いということをお伝えしているということであります。

例えば、築城基地の周辺に行かれますと、それは騒音というのはとてつもなくやっぱり大きいものがありますが、佐賀空港に配備される資機材がそのような騒音を起こすかという、それはそこまでではないだろうと。もちろん、ジェット戦闘機とプロペラで飛び上がっていくものの音の違いというものもありますけれども。また、現実目達原と、例えば、道海島の距離を考えれば8キロぐらいだというふうに思いますけれども、まあまあ近いところで陸自のヘリが飛んでいる姿を日常的に見かけているわけでございます。

平成28年の議会でも申し上げましたように、いたずらに不安をあおることなく、正確な情報をしっかりとお伝えすべきときにお伝えしていきたいということであります。それは全く変わっておりませんので、まさに先ほど課長も答弁しましたけれども、議会の皆様と共に、しっかりと伝えたいときがあれば伝えに参るし、何か情報があれば――既にいろいろと防衛局からは情報を密にしていく関係をつくっていただいておりますので、そのような関係の中で、未来に向かってやっていきたいというふうに思っております。

○議長（遠藤博昭君）

4番。

○4番（馬淵清博君）

ありがとうございました。

先日、私、町内のほうで政治報告会をしていただけないかということで依頼がありましたので、町内のほうで報告会という形で、何を話したらいいかということで考えまして、オスプレイのことを話したわけでございます。皆さん関心が高くて、オスプレイがどうして佐賀空港に配備されるのかと。島嶼防衛のためとかいっても、原点すら知らない方もおられました。情報公開が少ないとか、そういうことではありませんけれども、知らない方も含め、反対者も含め、賛成の方もおられると思います。

今後、今まで以上の情報の発信、市民が安心するような情報の発信に努められますように希望をいたしまして、今回の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（遠藤博昭君）

ここで暫時休憩いたします。

なお、再開時刻は10時35分としますので、よろしく願いいたします。

午前10時21分 休憩

午前10時35分 再開

○議長（遠藤博昭君）

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、8番龍誠一君。

○8番（龍 誠一君）（登壇）

皆様こんにちは。8番、龍誠一でございます。通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

壇上からは、まず陸上自衛隊輸送機オスプレイの佐賀空港の配備計画についてです。少しかぶるような感じでございますが、同じ内容は2回も3回も聞いたほうがよろしいと思いますので、よろしく願いいたします。

市長は、防衛省九州防衛局を訪れ、飛行時の騒音への懸念を伝えられ、どういう答えをいただかれたのか、また、きめ細やかな情報提供を申し入れるとのことでしたが、どういう情報提供を申し入れられたのか、それに対してどういう答えがいただけたのでしょうか。お答えください。



次に、デジタル田園都市国家構想交付金についてですが、岸田内閣の新資本主義の施策の柱となるものと言われておりますが、この交付金には3つのタイプがあります。

大川市としてこの交付金をどのように活用しようと考えておられるのか、また、既に活用されたことがあるのかをお答えください。

3つ目ですが、「大川の駅」について、計画について。これについては始まりから現在に至るまでの計画の流れを大川市民の皆様からいただいた疑問点を私なりにまとめて質問席より質問させていただきます。

以上でありますので、あとは質問席にて質問させていただきます。

**○議長（遠藤博昭君）**

市長。

**○市長（倉重良一君）（登壇）**

それでは、龍議員の御質問にお答えをいたします。

先ほど馬淵議員の御質問にもお答えいたしましたとおりであります。九州防衛局を今月13日に訪問し、オスプレイを含む自衛隊機の飛行時の騒音、きめ細かな情報提供の2点につきまして、伊藤局長に対して申し入れを行ってまいりました。

この申し入れに対する九州防衛局側の回答といたしましては、1点目の自衛隊機飛行時の騒音に関し、まず、自衛隊機の飛行経路につきましては、有視界時の場周経路、これは、通常の固定ルートでありまして、佐賀空港南側の海上を飛行するものであります。2点目、悪天候時の計器飛行経路、パイロットによる目視での飛行が困難な場合に、空港側の指示に従い飛行するもの。3点目、九州にある4つの演習場と佐賀空港間を往来する経路、特に大分県玖珠町にございます日出生台演習場との往来経路は、筑後川昇開橋をポイントとして通過する場合があります。3つの経路の中で唯一、大川市上空を飛行するということであります。以上3つの基本経路の説明がなされました。その上で、騒音につきましては、大川市においては、環境省が定める環境基準の57デシベルを超える範囲ではないということを確認しております。

また、2点目の情報提供に関しましては、これも先ほど御答弁したとおり、今回の九州防衛局訪問におきまして、連絡体制を構築しているところでございます。

続きまして、デジタル田園都市国家構想交付金の制度内容についてお答えをいたします。

デジタル田園都市国家構想交付金につきましては、令和4年度第2次補正予算において創

設されたものでございまして、従前のデジタル田園都市国家構想交付金、地方創生推進交付金、地方創生拠点整備交付金の3つの交付金が再編されたものであります。現在は、デジタル実装タイプ、地方創生推進タイプ、地方創生拠点整備タイプに分類されております。

デジタル実装タイプは、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上に向けた取組に対する支援でありまして、本市におきましては、国の令和4年度第2次補正予算に採択をいただき、令和5年度DX事業として、保育園ICT推進事業に活用しております。

地方創生推進タイプにつきましては、デジタルの活用などによる観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組に対する支援でありまして、主にソフト事業が対象とされております。

本市では、大川Rebuilding（リビルディング）事業が国の令和5年度当初予算に採択をいただき、今年度より3か年の計画で活用してまいります。

地方創生拠点整備タイプは、地方創生推進タイプと内容的には似通っておりますが、主にハード事業が対象とされております。

本市におきましては現在活用しておりませんが、大川市子育て支援総合施設モッカランドの整備におきまして、制度改正前のメニューであります地方創生拠点整備交付金を活用しております。

以上、答弁漏れ等ございましたら、自席よりお答えいたします。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

まず、陸上自衛隊輸送機オスプレイの佐賀空港配備計画について。

合意書がないということでありましたが、大川市でオスプレイ配備地に近い地域はどこだと考えておられますか。

○議長（遠藤博昭君）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光君）

先ほど馬淵議員の答弁にもありましたように、柳川市の集落までの距離と同じ距離ということで、大野島、それから紅粉屋地区について、それについても九州防衛局のほうにお伝えをしております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

あつてはならないことですが、万が一墜落事故が発生した場合、どこ話し入れをすればよいのですか。また、事故によって問題が生じた場合、解決するための話し合いができる体制は整っていますか。

○議長（遠藤博昭君）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光君）

お答えいたします。

当然事故がないよう運用していただくことが大前提でございます。もしそういったことが起こった場合、徹底した原因究明、本市への説明及び情報公開を行っていただき、確実な対策を講じていただきたいと、そういったことを防衛局と連絡を密にしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

2025年、令和7年6月30日、駐屯地の工事を完了する予定で、今のところアメリカ軍は常駐しないが訓練はあるとなっておりますが、万が一アメリカ軍が事故を起こした場合、日本の法律が適用されるのですか。

○議長（遠藤博昭君）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光君）

その辺の詳細なことはちょっと私は分かりかねますので、お控えさせていただきます。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

これからいろいろと問題が生じてくるだろうと思いますので、この質問につきましては、今後様々な意見や要望が出てくると考えておりますので、終わりますが、最後に市長、市民の皆様が今後も安心して安全に暮らせますように、様々な不安要素を取り除くための要望や申入れがありましたら、いち早く動いていただきまして解決いたしますように、よろしくお願い申し上げます。

次に、デジタル田園都市国家構想交付金についてですが、先ほど申し上げられました3つのタイプですが、それぞれの限度額と補助率を教えてください。

○議長（遠藤博昭君）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光君）

お答えいたします。

現在、本市で取り組んでいる事業、まず、保育園ICT推進事業、これはデジタル実装タイプのタイプ1というものでございます。補助率2分の1、上限額が1億円となっております。

次に、大川Rebuilding（リビルディング）事業は地方創生推進タイプで、横展開型と言われるものでございます。補助率2分1で、上限額は、単年でございますが7,000万円となっております。

過去に採択されました、いわゆるモッカランドにつきましては、現在の地方創生拠点整備タイプでございまして、補助率2分の1、上限額5億円でございます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

ありがとうございます。それぞれに理解できましたので、この質問を最後としますが、国の担当所管は内閣官房だと考えますが、デジタル庁も何か関連がありますか。

○議長（遠藤博昭君）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光君）

お答えいたします。

デジタル田園都市国家構想交付金は、基本的には内閣府地方創生推進事務局が窓口となっております。デジタル実装タイプの中で、特にオープンな複数分野のデータ連携した基盤を構築、活用し、複数のサービスを展開するなどのモデルケースとなる取組や、それに加えて、マイナンバーカードの用途開拓に資する取組など、デジタルを使った高度で専門的な取組であるタイプはデジタル庁とも連携して取り組んでおられます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

では、次の質問に移ります。

3番目の「大川の駅」について、計画地についてですが、本件に限らず、全体的な案件の流れを考えてみますと、個人的に市長は頑張っていると考えておりますが、なぜ市長が「大川の駅」を大野島にと考えていらっしゃるのかが理解できませんし、「大川の駅」建設に賛成されていた市民の方々も建設地が大野島と聞かれて理解できずに反対へと転換されております。そういう方々がどんどん増加しておりますので、市民の皆様の代弁者として、皆様からいただいた疑問を私なりの解釈で質問させていただきます。

まずは、大川市に道の駅の話が出たのはいつですか。

○議長（遠藤博昭君）

森副市長。

○副市長（森 寿貴君）

平成27年10月の経営会議のほうで方針決定がされたというふうに承知しているところです。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

平成27年ですね。そう理解されているわけですね。

道の駅の整備は誰が言い出して、どういう経過をたどりましたか。

○議長（遠藤博昭君）

森副市長。

○副市長（森 寿貴君）

平成27年10月の経営会議、平成27年10月なので鳩山前市長時代だと思いますけれども、こちらのほうから端を発しているなというふうに理解しております、その後の流れとしましては、平成31年度に企画課内の課内室として「大川の駅」の推進室が設置されましたよと、続いて、「大川の駅」の整備推進協議会のほうが設立されましたと、令和3年4月に「大川の駅」全体の計画が公表されまして、翌年、令和4年4月に「大川の駅」道の駅基本計画が公表されたと理解しております。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

昨日の話では、三丸公共用地ですね、話は出たが検討はしていないということですね。

○議長（遠藤博昭君）

橋本副市長。

○副市長（橋本浩一君）

昨日のここでの私の発言も用いられましたけど、先ほど森副市長のほうから平成27年10月の経営会議ということを申しました。それ以前の経営会議に道の駅の議題は一度も上がっておりません。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

道の駅を大野島にと確定したのはいつでしたか。

○議長（遠藤博昭君）

森副市長。

○副市長（森 寿貴君）

平成27年10月の経営会議でございます。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

「大川の駅」という名称で定着したのはいつでしたか。

○議長（遠藤博昭君）

橋本副市長。

○副市長（橋本浩一君）

まだ私が在籍しておりました平成28年に基本構想をつくりました。そのときの名称として、中身は道の駅、川の駅ということで、じゃ、名称をどうつけるのかということで、仮称「大川の駅」構想ということで立ち上げております。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

ありがとうございます。「大川の駅」を造るのに県道が必要だと聞いておりますけれども、いつ完成しますか。

○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興課主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

道の駅へのアクセス道路につきましては、現在、県のほうで施工をやってもらっておりまして、現在、測量詳細設計に入っておりますけど、完成時期につきましては、「大川の駅」の完成と同時完了ということでお願いをしております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

それでは、地権者様との用地交渉は始まっておりますか。

○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興課主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

今年度から用地取得のための地権者協議を着手しておりまして、今年度中の用地取得を目指しております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

時間を考えまして、少し飛ばしまして、防災拠点機能の質問をさせていただきます。

「大川の駅」予定地内に防災拠点機能を高めるための施策がありますか。

○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興課主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

お答えします。

「大川の駅」での防災機能としましては、現段階では防災備蓄倉庫や発電施設、ヘリポートなどを整備するとともに、雨水排水設備の設置、それと軟弱地盤対策のための地盤改良などを行いまして、万全の災害対策を講じていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

国土交通省の発表の中に、災害時に駐車場の利用と言葉があります。本当の大災害は自然災害だと考えておりまして、地震を別として考えますと、災害を起こさないために、大雪や台風、その他通行が危ないと判断されたときに、早めに通行止めとなります新田大橋や沿岸道路付近にある「大川の駅」予定地の中に防災拠点機能が必要ですか。

○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興課主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

お答えします。

新田大橋や有明海沿岸道路が通行止めになった場合につきましては防災機能として機能しないのではないかという御指摘かもしれませんが、一概にそのようなことは言い難いというふうに思っております。

「大川の駅」では、整備予定地より一定離れたエリア、こちらが被災した場合、ケースに災害復旧活動の拠点ということにも活用を想定しております。



また、「大川の駅」では、大雨、洪水、地震などが発生したときに地元住民の方の一時避難場所、道路利用者の方につきましての一時避難場所、そういったことも想定をしておりますので、災害復旧活動の拠点というふうになるような防災機能を持たせるということにしております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

ありがとうございました。「大川の駅」予定地に盛土の計画はありますか。

○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

「大川の駅」につきましては、盛土の造成工事を行うということにしております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

それでは、企業誘致地にも盛土の計画がありますか。

○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

企業誘致の予定地のところにつきましても、現在農地でありますので、盛土等の造成工事が必要になるかというふうに思っております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

ちょっと早いんですが、オスプレイの配備計画が始まった今、近隣の山を考えますと、どこから土を持ってくるのですか。日程を考えると、オスプレイの整備が終わってから盛土を

考えていらっしゃるのですか。

○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

盛土の時期ということですかね。盛土の時期につきましては、（発言する者あり）盛土の採取場所につきましては、現時点でどこのところから持ってくるかというのは、今のところは考えておりませんが、今、議員がおっしゃられましたとおり、佐賀空港のオスプレイの整備予定地につきましては、かなりの盛土をされるというふうに思いますけど、「大川の駅」は「大川の駅」で当然盛土を確保しなければならないというふうに考えております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

市長。

○市長（倉重良一君）

補足ですが、私が知っている限り、これは報道にも出ておりましたが、佐賀空港の自衛隊用地の盛土につきましては、佐賀県内からの土砂採取ということで計画をされているやに伺っておりますので、補足をしておきます。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

補足ありがとうございます。

ただ、こちら側の土木関係者の方に聞いて、そういう質問を求められていまして、「大川の駅」についても恐らくどこの山から持ってきていいか分からないということだったので、先ほどの質問をさせていただきました。

盛土を実行される場合、大型ダンプカーが必要と思いますが、規模からすると、トータル何十万台が必要となりますか。

○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

お答えします。

盛土の量につきましては、現時点では算出をしておりませんので、ダンプが何台必要になるかというのはお答えすることができません。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

今答えられないかもしれませんが、今後、話が「大川の駅」整備をするというほうに進んでいった場合に、ダンプカーの台数が増える分だけ民家への振動被害が増えますが、その対策はありますか。

○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

お答えします。

盛土をする場合のダンプの通行についてということだと思いますけど、どこを通行して「大川の駅」の盛土をやるのかというのは、今のところルートのにもまだ決まっておられませんけど、なるべく住宅街を通行しないようなルートを検討しなければならないというふうに思っております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

もう少し突っ込みますけれども、軟弱地盤上に建設してある住居は振動によって傾きやすいのですが、計画していないかもしれませんが、何件ぐらいの被害を想定しておりますか。していないとするならば、今後想定をよろしくお願いします。

○議長（遠藤博昭君）

森副市長。

○副市長（森 寿貴君）

そのような被害が全く生じないようにするというのが工事の計画上の基本なんだろうと。我々が当然自ら工事をするわけではありませんけれども、当然我々が建設だったりとかお願

いするのは大手のゼネコンだったりとか、そういう蓄積というふうなものがあるような事業者ですので、そういった全ての工事に基本するようなことについてはしっかりと行っていただきたいというふうに考えているところです。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

ありがとうございます。ただ、規模が大きくなるとどうしても、そうは思っても業者が進入口を間違えたりとか、そういう事案がやっぱり各工事現場で生じております。そうなったときに、やっぱり地元住民の皆様は地震ぐらいの揺れを感じたり、心配したりされると思うので、そういうところは、そういう形でダンプを通行させるような状況が生じた場合には、森副市長が言われたように、被害が生じないように今後よろしく願いしておきます。

次ですが、万が一——これは飛ばしましょう。要は、想定してあると思っていたもので、全体の被害総額の想定なんかはしてあるのかなというふうに考えておったもので、ちょっとそれは飛ばします。

盛土地には精度が必要な会社と来られない企業もあります。何社ぐらいに誘致を考えておられますか。

○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

議員、御質問の意味がちょっと分かりませんので、もう一回よろしいでしょうか。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

あのですね、埋立地だとか、盛土地というのは基本的に大企業関係、いわゆる精度が必要な会社、精密機械の会社だとか、そういうところはまず来ないんですね。まず来ないんですよ。なので、私が聞いておったのは、大企業とかも呼ぶというような話も聞いておりましたので、そういうところは来れないですよと、そういうところは来れないと想定して大体企業誘致も考えておられるみたいなので、何社ぐらいの、トータル何社ぐらいの企業を誘致したいかと考えておられますかという質問です。

○議長（遠藤博昭君）

森副市長。

○副市長（森 寿貴君）

トータル何社かというような試算の仕方はしてなくて、マックス3万9,000平米というふうなものの範囲の中で民間事務所とコミットする中で、それは1社の場合もありますでしょうし、数社になるような可能性もありますでしょうし、ただ、おっしゃったような精密機械の工場みたいなものは、大川に来て相乗効果というふうなところはあまり期待できないような業種業態だと思いますので、そういったものじゃないような、集客効果があるようなものだったりとかというようなところが基本なのかなと考えております。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

そしたら、「せんちゃくじょう」、いわゆる船着場ですね、これは造られるんですか。

○議長（遠藤博昭君）

森副市長。

○副市長（森 寿貴君）

造ることを予定しているところでございます。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

そしたら、佐賀県の漁業協同組合や諸富の漁業の方々はそれに賛成されているんですか。

○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

佐賀県側の漁業組合の方とは昨年、「大川の駅」のかわまちづくり計画についてお話をさせていただきましたけど、今年度また、昨年話したときはちょっとノリ時期で忙しかったもので、多くの方にはまだお話をしておりません。今年度改めてノリ期の前に佐賀の漁業組合の皆さんとは「大川の駅」のかわまちづくり計画について御説明をしていきたいというふうに思っております。

これは、かわまちづくり計画につきましては、国土交通省の河川事務所と一緒に計画を策定しておりますので、一緒に説明をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

では、ちょっと内容を変えて質問いたします。

東京から道の駅川場田園プラザまで163.3キロメートルと考えております。そして、近隣には群馬県、千葉県、神奈川県、埼玉県、山梨県、長野県、東京都、栃木県、福島県、新潟県がありまして、人口的には約4,660万人が住んでおられます。九州は、全県で約1,426万人で、東京都のみと大体同じぐらいです。そんな中で、大川市近隣の人口を考えますと、都市部とは比較にはなりません。が、都市部と同じ状況を目指して同じくらいのお客様が得られると考えておられるんですか。

○議長（遠藤博昭君）

森副市長。

○副市長（森 寿貴君）

東京圏も非常に大きい都市圏、世界的に見ても大きい都市圏というようなことは確かに理解しておりますが、同時に、競合する施設というのも多いわけです。川場田園プラザ以外の道の駅もたくさんあるというふうな状況でございます。規模ごとにそれぞれ競争相手というのも当然いるというようなことは御理解いただければなというふうに思っておりますし、昨日の御答弁の中でも、利用者の見込数として100万人というようなところ、御説明しましたけれども、そういったものはしっかりと考え方も定量的にお示ししているところですので、十分達成できるような目標なのかなというふうに考えているところでございます。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

ありがとうございます。あのですね、地方には地方のよさがありますが、地方では時間感覚も、地理感覚も、文化も、経済も、人の流れも都市部とはかなり違いがあります。今は東京が中心であらゆるものがそろっております。だからこそ、地元を愛されるがゆえに「大川

の駅」を大野島に整備することを反対しておられる皆様方の中には、大野島は違った整備のやり方があると考えられている方もいらっしゃると思います。

ここで、ちょっと一言申し上げます。私自身は市民の皆様から大量の反対意見をいただいておりますが、時間的に全部の質問は不可能になってまいりましたので、今後流れを確認しながら質問を進行させていただきます。

ちょっと話を変えまして、今度は成功した場合、お客様がたくさん来られた場合を想定して質問させていただきます。

予定地付近は道が細く、混雑した場合にスムーズに通れる回り道がありませんが、どうしようとお考えですか。場所はズレておりますけれども、始まる時間が決定しております木の香マラソンですら、やや渋滞しますね。そして、また、集まる規模を大きくした花火大会、この開催時には、同じく始まる時間が決まっておりますが、数時間の渋滞を要していますね。これはどちらも大野島です。

**○議長（遠藤博昭君）**

甲斐大川の駅整備振興主幹。

**○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）**

お答えします。

「大川の駅」の開業に伴います道路事情の御心配ということと申しますが、「大川の駅」に來訪いただいたお客様、それと周辺住民の皆様にも不便となることがないように、その対策については今後調査、検討をしてみたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（遠藤博昭君）**

8番。

**○8番（龍 誠一君）**

それでは、予測しておいたほうがいいと思うから申し上げますが、仮に大野島インターチェンジが渋滞した場合、国道や隣接道路の混雑を回避するために、大分完成している産業道路である沿岸道路を仕事で御利用される方々にどういう案内をされるんですか、万が一混雑した場合です。

**○議長（遠藤博昭君）**

甲斐大川の駅整備振興主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

お答えします。

大野島インターチェンジが渋滞をするということになれば、当然、有明海沿岸道路の通行自体も支障が来るということになりますので、先ほど言いましたけど、これから調査検討してまいりますけど、当然、県のほうから施工してもらっていますアクセス道路がありますが、インターチェンジ自体が渋滞するということになれば、当然、迂回路等の検討もしていかなければならないというふうに思っております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

私の気持ちも入りますが、「大川の駅」を大野島に整備するためには課題が山積みです。失敗を考えても課題が山積み、成功を考えても課題が山積みである大変な地域だと私自身は考えております。

心配して最初に申し上げました、「大川の駅」をなぜ大野島に整備されるのか理解できないわけです。理想がすばらしく目標も設定して夢を見るまでは簡単です。対象地にも大川市全体にもたくさんの方々が納得のいく説明がないと言われております。誰だって嫌な思いはしたくありません。行政の仕事の流れと私が体験した大・中・小企業の方々との話の流れでは、一般的な仕事の段取りと進め方が、流れが違います。ぴんとくるものはありませんが、まずは事業の防御体制をしっかりとつくり上げてからでないと、大きさに比例して問題も津波のごとく訪れると考えております。

個人的な考えですが、分相応という言葉があります。一般的には身の丈に合ったという言葉で使用しますが、広辞苑で調べてみますと、意味としては、能力、地位にちょうどふさわしいとあります。また、対になる言葉として、不相応という言葉があります。釣合いを失していること、ふさわしくないこととあります。私から見ますと、課題が山積みの「大川の駅」ですが、どんな案件でも偏ると必ず苦情を招きます。急がず、一旦立ち止まって全体を見直すべきだと考えております。

「大川の駅」整備に対して反対される市民の皆様方の御意見を聞かれて事を進められたほうが、よい結果が出るのが早いと考えるからです。



最後に、特命副市長、人としての平等、SDGsの最終目標は世界中の全ての人々が豊かに暮らし続けていくことができる社会、そして、誰一人取り残さないためには、年齢、性別、出身地や民族、障がいの有無といった条件によって不平等があってはなりませんとなっており、今や、あらゆる業種の団体や会社、そして、多くの人々がSDGsを取り入れておられます。

我が国日本は、1910年頃、資本主義社会が成立を見るに至り、日本国憲法第14条、基本原則として、「すべて国民は、法の下に平等であって、人権、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」と定められております。

特命副市長どうですか、内容は間違っていないですか。

○議長（遠藤博昭君）

森副市長。

○副市長（森 寿貴君）

というのは、憲法14条の話でしょうかね。それなら、そのとおりなんだろうと思います。

○議長（遠藤博昭君）

8番。

○8番（龍 誠一君）

ありがとうございます。35分までですよ。ちょっと中途半端ではございますが、質問の内容を考えますと、まだかなりの数いただいておりますので、時間が足りません。時間をこのまま継続させていただきますと、ちょっと突っ込んだ話をする部分もありますので、もっと中途半端な終わり方になると判断できますので、予定をしておりました資金計画、財源計画、財政計画等々につきましては、質問時間が足りませんので、次回に質問をさせていただき、これで一般質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

○議長（遠藤博昭君）

ここで暫時休憩いたします。

時間がちょっと中途半端になりましたけど、次の質問者である永島守議員、どうですか。

（「よかですよ」と呼ぶ者あり）構いませんか。分かりました。

じゃ、再開時刻を11時25分といたします。

午前11時17分 休憩

## 午前11時25分 再開

### ○議長（遠藤博昭君）

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、12番永島守君。

### ○12番（永島 守君）（登壇）

皆さん、最後の質問者でございます永島守でございます。私は原稿がございませんので、執行部の皆さん方に、議長に通告をお出しいたしておりましたこの通告書を少し読ませていただきます。

今回の私の質問と申しますのは、倉重市政、今後の優先政策課題についてということで、中身については、打合せをいただいた「大川の駅」、それから、インテリア、企業誘致、それから企画と4課にまたがった打合せをやったわけでございますけれども、その中におきまして、皆さん方には御理解いただけない部分もあるかと思っておりますけれども、また、発言中、大変御無礼な発言も伴うかと思っておりますけれども、ひとつ御理解をいただきますよう、よろしくお願いを申し上げておきたいと思っております。

春の統一地方選挙におきまして、こうして、選挙期間中で候補者が掲げました今回の選挙の中に、政策の早期実現が果たされますように、心から願っているわけでもございます。

前期の定数15議席が今回の統一地方選挙によって14議席に削減がなされ、誠に結構な結果だったと思っております。まさにこれこそ時代に見合った、その成果と言えるわけでもございます。

今やIT産業は日々の急成長を続け、そして、人工知能、AIが産業はもとより、政治や行政の分野にまで忍び寄り、そしてまた、今や地方政治行政に関わるものの聖域に脅威を与えるまでに至っているわけでございます。

近年では地方議会議員のなり手不足が全国地方の共通課題でもあります。その原因とされるのが、議員の低報酬と身分等々の保障にあると言われてもいるわけでございます。優秀な人材ほど政治の道を希望しないというのが近年の傾向にもございます。さらに、チャットGPT等の登場で、今後は無策の政治家、窮地に立たされることは明らかであります。現在の定例議会本会議一般質問の問答は、秒速で済まされるような時代を迎えようといっております。いまだに本会議質問だけが議員の仕事のように思っておられる、そのような市民も多くおられるわけでございます。

ただいま、質問資料等のただただ資料等の準備に長期間費やす、そのような議員を誠にふびんに思われてなりません。行政改革に先駆け、まずは議会議員自らの意識の改革を図るのは急務であります。

さて、本題に入ってまいりますけれども、既に周知のように、私には長年にわたりまして掲げ続けてまいりました。そのような近未来への政策があるわけでありますが、この通告書の中に、詳細を語ることは差し控えさせていただきます。

最初で最大の大川市構想「大川の駅」事業、これは既に市内外行政において大きな期待と夢を担っているわけでもございます。市長が掲げられる環有明海経済圏構想は、まさに今のこのような時代に沿った、そのような大事業でもあるわけでありまして。どうか一刻も早く予定どおりの開業がなされるように願っているわけでもございます。

さらには、本日もこうしていろんな方々から御意見、質問等がございました佐賀空港によるオスプレイの配備、このような件についても皆さん方は既に御案内のとおりでございます。2名からお話ございましたから、私はこの件については差し控えをさせていただきますけれども、さらに、私が先ほど申し上げました、その環有明海経済圏の将来の浮揚政策等々については、長年にわたる倉重市政の大きな政策の目標でもあるわけでありまして。

いろんな方々によって、この議場でいろんなことが語られてまいりました。「大川の駅」を中心とした賛成・反対論がございましたけれども、今このような時期に大川市が少しでも、少しでも余裕のある、そのような時代において、私は将来に向かって我が子や孫たちがしっかりと足が地につくような、そういう生活ができるためにも、この陰りが見え始めてまいりました大川市の基幹産業、これに伴い、しっかりと将来を見据えながら、私は政策を推進していかなければならない、そういう思いを持って、こうして本日もこの大川市議会本会議場壇上に立ちまして、このネットを通じ多くの市民の皆さん方に御理解をいただきますよう、私はこうして立たせていただいております。

執行部の皆さん方とは打合せの段階において、この私の構想による、そのような打合せをしっかりとさせていただきました。そして、皆さん方からの温かい御理解をいただいたつもりでもございます。

いろんな批判をされる方はございますけれども、政策というのはすぐにできるものではないでございます。私は三十数年にわたりまして、当初よりこの有明海、この周辺の、この沿岸地域、湾岸地域においてこの浮揚政策を進めていかなければ、大川市、3万ちょっとの大川市

政、行政の中において将来はあり得ない、そのような思いを持って本日を迎えているわけでもございます。

私は語りたいことは、先ほども言われた方がおられますけれども、たくさんございます。語らせていただくような御猶予をいただきますなら、3時間でも5時間でも私は自分の政策について、そして、この政治や行政に関わる地方の政治家が今やらなくてはならない、将来のためにどういう政策をもって進めていかなければならないのか、語り続けていけるわけでもございますけれども、何しろ限られた時間の中でございます。しっかりと私の思いは打合せの段階で執行部、関係諸氏の皆さん方は御理解をいただいているものと私は思っておりますので、傍聴者、また、他の議員さん方には御理解をいただけない、そういう部分もございませう。そのようなことになるかもしれませんが、どうぞ執行部とのやり取りでございませう。途中を省かせていただきながら、今回はこの質問を続けていかせていただきたいと思っております。

それぞれの議員さんたちがそれぞれの政策は既にお持ちだと思いますけれども、人の政策や行政の提案を批判することは簡単であります。その方々が言われる、昨日は、大野島に道の駅をやめて、そして清掃工場、焼却炉を据えろ、そしてまた、のこくずを運んで産廃の焼却をしろというような御意見がございました。それはそれで結構でしょう。しかし、私は大野島の住民の一人として誠に遺憾でございます。一々は申し上げませんが、私は今後、このようなお分りをいただけない批判的な方々に対してはしっかりと自分自身の政策を、また、その周辺地域においてもしっかりと唱えてまいりたい、こういう思いを持ちながら、私は今回の一般質問2日目を迎えているわけでもございます。

私が執行部の皆さん方と色々なお話を交わして打合せをやってまいりました。どのような思いを持って私の打合せの時間を過ごされたか分かりませんが、今回のこの答弁の中に、最初は市長が答弁いただくことかと思っておりますけれども、その答弁を聞きまして、私は皆さん方の御理解ともしっかりと再質問の中において反映をさせてまいりたいという思いを持っております。

私は長年にわたってこうして大川市議会に参画をさせていただいております。いろんなことがございました。私も以前は皆さん方から批判を受けることもあったでしょう。しかし、私は今現在、こうして大川市の将来を、そして、今回の最初で最後であろうこの「大川の駅」、この大事業を皆さん方と共に思いを一つにして、早期の実現、開業を目指しまして今

後も働いてまいりたいというふうに思っております。

それぞれの方々が思いはございましょうけれども、今やらなくてはならない大川市議会として、市議会議員として、私は冗談で議員をやっているわけではございません。しっかりと昨日、今日、まだまだ経験が浅い議員さん方がしっかりと批判をされておりますけれども、こういう政策というのはいろんな市長の中にあります。歴代、私は倉重市長で6人目の市長を迎えているわけでございますけれども、いろんな市長の中にも、やはり一番思われてきたのがこの有明海沿岸地域の浮揚政策であります。その間に、いろんな事業、大きな事業、小さな事業、いろんなことがございます。施設の整備等もございました。成功した事例もございましょう。しかし、市長自体の願いはやっぱり歴代の市長の中に通じているわけでございます。

昨日は、その焼却炉の話がございましたけれども、軽々しくこの本会議場で発言するのはいかななものかと私はしっかりと心に刻みながら、私は今後に備えてまいりたいと思っております。

清掃工場や、それからし尿処理場、さらには斎場、こういうことを建設するに当たっては、大川市民を二分する、反対論、賛成論があったわけでございますけれども、そのようなデリケートな発言、問題について軽々しく口にすることは私は決して許される発言ではないと思っております。

壇上で長くなりますから、質問席において、あとはやり取りさせていただきますけれども、これにて壇上でのお話を終わらせていただきます。

市長答弁、ひとつよろしく、分かりやすくお願いをしたいと思います。

**○議長（遠藤博昭君）**

市長。

**○市長（倉重良一君）（登壇）**

それでは、永島議員の御質問にお答えをいたします。

まず、「大川の駅」事業の経過と今後の予定について、お答えいたします。

遡りますと、平成27年10月の経営会議におきまして方針決定が行われ、平成31年度に企画課内に大川の駅推進室を設置、「大川の駅」整備推進協議会の設立や、「大川の駅」全体計画をはじめとした「大川の駅」整備に係る計画の策定等を段階的に行ってまいりました。さらに今年度からは、大川の駅整備振興課として、室から課に格上げし、また、総務省より森

寿貴副市長を課長兼任で招聘し、新体制で、ギアを上げ、「大川の駅」整備・振興事業を強力に進めているところであります。

具体的に、ハード整備としましては、今年度から用地取得のための地権者協議に着手しており、今年度中の用地取得を目指します。また、地盤対策設計として軟弱地盤対策のための工法の検討を行い、次年度に予定しております対策工事の施工につなげます。

ソフト事業としましては、本市の産業、観光振興の鍵となる広域的地域振興拠点機能として、具体的にどのような機能があれば本市基幹産業の稼ぐ力の向上に寄与するかにつきまして、ビジネスにおいて実績を上げられている事業者を代表する皆様と今年度議論を重ねて検討を深め、具体化してまいります。

さらに、国土交通省の国道事務所、河川事務所とは道の駅、川の駅（かわまちづくり）整備につきまして、協議、情報共有を図り、御指導をいただきながら確実に事業を進めてまいります。

あわせて、福岡県で施工いただくアクセス道路につきましても、整備に向けた詳細設計が行われているところをごさいますて、引き続き連携を密にして、整備促進を図ってまいります。

次に、環有明海経済圏域についてお答えをいたします。

人口減少等、社会情勢が大きく変化する中、行政や官民の枠にとらわれず、垣根を越えて、この有明海沿岸地域の人々が共に誇りに思い、協働していくことが、この地域の発展につながっていくと確信をしております。この環有明海経済圏域の構築は、私の政治家としての使命であると考えており、これまでも議会をはじめ、様々な場所で申し上げてきましたが、近年、この地域を中心に多くの皆様が共鳴してくださっていると感じております。

具体的に申し上げますと、昨年度発足し、有明海沿岸地域14市町の観光協会を中心とする環有明海観光連合では、先月23日に第1回定期総会が鹿島市で開かれ、その折に鹿島宣言を採択され、豊かな観光資源を生かした地域づくりを共に進めていくことを宣言されました。

また、九州中部商工連合会におかれては、有明海沿岸地域の行政、経済界が共に手を携えることにより、広域連携による地域活性化に向けた取組を一緒になって進めていくため、有明海沿岸地域振興フォーラムを昨年度より開催されております。

このような民間主導の取組が進む中、私も積極的に参加しており、その中でいただいた御縁で、本年3月には日本経済同友会の皆様が本市を訪れられ、また私も東京の同会を訪ねる

など、民間企業の皆様との関係性構築にも生かしております。そして、この御縁の中から本年度早速、ワン有明としてイベントの検討に入られた団体もあり、共感の輪が広がっていくのを強く、また、とてもうれしく感じております。

このほか、行政主導の取組といたしましては、有明アライアンスの実現に向けたスタートアップ会議が開催されました。この会議は、本市を含む有明海沿岸地域10自治体の担当職員が集まり、この地域にある道の駅が相互に連携して全体の集客力を高め、道の駅間の周遊を促すことを目的とし、この4月末に佐賀県白石町で開催されたものであります。

また、コロナ禍で中断されていましたが4月より運航再開されましたが、台湾の皆様も自然豊かな有明海沿岸地域の魅力を感じられ、相互に往来が活発化することを大きく期待されておりました。

5月には九州最大級の多目的アリーナであるSAGAアリーナがオープンし、プロスポーツの試合、人気アーティストのコンサート、家族で楽しめるエンターテインメントなど多彩なイベントが開催され、大いににぎわっており、今後もこの地域の内外から多くの方を引きつける目玉となる施設となることが期待されています。

今年度からスタートする大川Rebuilding（リビルディング）事業におきましても、地域間連携の視点が重要となってくると考えております。例えば、インバウンド対応についてであります。アフターコロナの外国人観光客の傾向として、1回の旅の価値が向上し、滞在日数が長くなり、消費額も多くなっていると聞きます。外国人観光客の集客におきましても、小保・榎津の藩境の町並みなどの魅力を訴えることに併せ、周辺地域と一緒にプロモーションしていくことが重要であると考えております。

このように、有明海沿岸地域の人、物、金の交流を活発にしていけることにより構築されるのが環有明海経済圏域ですが、その連携のシンボルが「大川の駅」であります。短期間でこの環有明海経済圏域が注目されましたのも、「大川の駅」整備を掲げているのが大きな要因だと思っております。大川にとりまして、そして、この地域にとりまして宝箱となるよう、また、環有明海の中心となるよう、引き続き整備、振興に努めてまいります。

最後に、佐賀空港へのオスプレイ等配備計画に伴う大川市民の安全・安心の確保についてお答えをいたします。

佐賀空港へのオスプレイ等の配備計画への大川市の対応につきましては、これまでも申し上げてきましたとおり、国防政策でございますので、基本的に協力する立場にあります。一

方で、安全性の確保、騒音など環境面への配慮、住民生活への影響を最小限にとどめる対策を十分に取っていただきたいことなど、国に理解を求めるべきところは、これまで同様、しっかりと伝えてまいりたいと考えております。

今月13日には、私が市長就任来5度目となる九州防衛局長との面談に臨み、現時点で私が懸念している事項であるオスプレイを含む自衛隊機の飛行時の騒音、情報提供の2点につきまして、局長に対し直接申入れを行ってまいりました。その結果として、連絡体制の構築が図られ、以降、きめ細かな情報の提供がなされております。

今後、新駐屯地建設に向け工事が本格化することに伴い、市民の関心も高まっていくことが予想されます。そのため、安全性や騒音等に関し市民の皆様が不安に感じることはないよう、議会の皆様と共に、これまで以上に九州防衛局や県、近隣自治体と連絡を密にし、情報収集を行うとともに、必要に応じて要望等も伝えてまいりたいと思っております。

以上、答弁漏れ等ございましたら、自席よりお答えいたします。

**○議長（遠藤博昭君）**

12番。

**○12番（永島 守君）**

丁寧な御答弁をいただきました。執行部の皆さん方といろいろなことを1時間ほど打合せをやらせていただきましたけれども、昨日からやり取りがなされております「大川の駅」ですね。大川市構想「大川の駅」、この事業において賛否が問われるような、そういう質問等がございましたけれども、私は本当に市長、それから前市長であります鳩山市政においても非常に先見性の高い事業であろうというふうに思っております。

中身について、いろんな地盤の関係かれこれというのも昨日から本日、いろんなお話がございすけれども、私はあの有明海、九州佐賀国際空港、これにおいてもしかと、ペーパードレン法というような、そういう地盤の改良といえますか、水抜きが行われてきたわけでありすけれども、いろんな、どういう方法でやるのかと、ボーリング等についてもお話もございました。それは、私も専門でございせんから、大方のことは分かっておりますけれども、そういう部分については、これはしっかりと担当課長がやっていただくものだというふうに理解をいたしておりますし、私は壇上で申し上げましたとおり、一刻も早くこの事業が将来に向かって完成、開業ができますように、本当に心から念じている次第であります。

それに関して、非常に反対意見等がこの本会議場において交わされておりますけれども、



私が知る限りにおいて、他県、他市において非常に期待、そして夢を、できればいち早く行きたいというような、そういう思いを語っていただいております。隣の市でも近隣の市町村においてもいろんなそういう期待感が強い、これが「大川の駅」だろうというふうに思います。

反対の意見を聞かれておられます皆さん方においては、本人さんが反対の意見を述べておられるわけでありますから、当然としてそういう結果が出されたんじゃないかなろうかなというふうにも思いますけれども、どうしてもやっぱり反対の声というのはトーンが高くなります。それを聞いた人がまた誤った情報、そういうものをまた人に伝えるということもあるかと思えますけれども、私は私の想像の域ではございますけれども、私が関係する皆さん方においては非常に期待をされる方がほとんどでございますので、どうぞ安心して職員の皆さん、責任者であります市長、まだ理解をいただけない、そういう方々においてはしっかりと理解いただくような、そういうあれをやっていただきたい。

午前中、第1番目に変な内容の質問がありましたけれども、そういうことは決してございませんので、選挙は自分です。自分のことですから、そういうことをそういう道の駅の話に結びつけられたら非常に将来に悔いを残す結果となります。ですから、ぜひその辺のところはほかの議員さん方もぜひ御自覚の上、市民の皆さん方には伝えていってもらいたいというふうに思っております。

市長から壇上で環有明海ですね、この経済圏域、これに対する政策等について壇上では、これは要するに職員の皆さん方からお手伝いいただいた、少し手直しされた答弁じゃないかなろうかというふうに思いますけれども、どうぞ市長、自分の本音をやっぱりここで、環有明海、この地域による、先ほど言われました4県13団体、これで作っていただいております有明海観光連合、こういう方々もこの「大川の駅」、この設置事業について、これに賛同いただいて自らが結成されて、そして、大川にお見えになったわけでございます。

それからまた、壇上で市長が言われました、いわゆる経済同友会、全国の立派な企業の方々、そういう企業の方々がこの大川市にもお見えいただいて、さらには「大川の駅」早期完成、開業については力を貸したいと、力になりたいと、そういう思いの籠もった、なぜ言わないかというような昨日からの質問等についてなかなかすっきりしない答弁が、ないじゃないかというような、そういうことを思っているかなというような感じがいたしましたから、私は申し上げますけれども、私は大川市のため、皆さん方に情報を提供することがプラスな

のか、提供をし過ぎて、さらに反対の誤った情報を流されるんじゃないかというのは、大川市行政に限らず、これは地方の行政の中には一番真っ先に考えられることだと思います。いろんな事業については賛否、この自治体ではどこでもあるはずでありますから、ですから、大川市将来に向かってプラスになるのか、情報をこの方と共有したほうがいいのか、共有してはならないのか、これは私は一々申し上げませんが、多分にそうであろうというふうに、私はよその自治体も参考にしながら、私はそのように感じているわけであります。

あなたはそれを聞いてどうするのというような、そういう質問は大川市に限らず、いろんな行政の中に、議会の中にあるわけでありましてけれども、本当に、やっぱり政治というものをしっかりと学んで、そして、こういう場に備えなければならないというふうに私は思っております。政治を熟知された方なのか、そうでない方なのか、行政の政策に批判をする、ほかの議員の政策に批判をする、これにはしかとしたその政策そのものを学び、そして、批判をするならば、自らが政策をもって行政に対して提案をすると、しかし、その中においても、行政との信頼関係がどの程度あるかによって、これは私の勝手な想像の域でございますけれども、そういう中において行政は受け入れてくれるのかくれないのかというふうに私は考えております。

間違ったあれではなかろうというふうに思いますけれども、私は政治というものは、政策というものは、みんなが一緒になって同じ方向を持ってやることこそいい結果を迎えるはずであります。私はそういうふうに思っておりますけれども、反対のための反対、大野島に何で造るのかと、大野島がいいと結論が出されたからであります。それを当然として、行政は継続でありますから、特別なことがない限り政策の継承というのはあって当然であります。

そしてまた、政策というのは即時にできるものではございません。先代の市長において幾度となく現場を視察しながら、そして、昨日もお話がありましたけれども、いつ変更になったかという話がございましたけれども、一度もほかに決定をなされていないというのを私もしかと記憶にございます。

ただただ、三丸公用地において、あそこでもという、確かに市民からの声があるということはこの本会議場で誰か、当時の議員から口にされたことが私は記憶に残っておりますけれども、それは皆さん方の思いがここで語られただけであって、行政が三丸公用地において「大川の駅」を設置すると、そういうことはなかったのは事実であります。

いろんな形で反対しようと思ったら何でも結局、言えるわけでありましてけれども、政治と

いうのは後々に残る、そういう政治家がいなければ実現しないわけでありますから、いろんな考え方はあるかと思いますが、ただただ私は将来のこの大川市政が後世に残るような、そういう政策の実現を図っていただきたいと、私はそういうふうに思っております。

話が長くなりますからあれですけれども、市長、再度自分の本当の思いを込めながら、いろんな方々の御意見がございました。遠慮することはないだろうと思いますよ、私は。もうはっきり言っていただく。

昨日は橋本副市長も少し怒りながらやっておられましたけれども、私は当然だと思いますよ。ぜひ市長、その辺のところをもう一度、自分の意思、思いを語ってください。

**○議長（遠藤博昭君）**

市長。

**○市長（倉重良一君）**

まず、壇上答弁をいたしました。確かに職員に手伝ってはおりますが、とりわけ環有明海のところにつきましては、ほぼほぼ私の思いを、個人的な体験、経験に基づくものを答弁させていただいております。

もちろん、まだ職員も知らないこともございます。たくさんの方々にお会いして、ちょっと話がずれますが、私がやるべきことは将来にわたって、まさに、例えばモッカランドに行って、お子さんを連れた方々が幸せそうにされていますけれども、ずっとみんな幸せに暮らしていただきたいと、そのための手段を講じていくのが政治や行政に携わっている私の責任だろうということです。

ついては、それに伴って、もう繰り返しになりますが、縮小していく社会の中で何とか大川市の力を維持するというためには、この「大川の駅」が必ず必要だということと、単独では今後この地域で発展をしていくことが困難なのはもう目に見えて分かっておりますし、よその自治体、よその地域、この環有明海でつながることで世界中からたくさんのエネルギーを取り込む、そういう地域にしていきたいという、まずは基本の思いがあります。

その中で、「大川の駅」の整備を掲げて、今それこそ機関決定に基づいて、これは民間企業であればもう決まったことは次のステップにどんどん移っていかないと、時代に取り残されていくんですけれども、当然、公ということで様々な御意見を丁寧に拝聴しながら事は進めておりますが、それはそれですけれども、仕事というのは決まったことは次のステップに進んでいかなければ社会は変わっていきませんので、しっかりと仕事をやっていってござ

す。

その中で、まさに、これは団体の名前出すのはどうかと思いましたが、経済同友会のような企業の方々が大川市にあちらから来たいと、市長の話を聞きたいので時間をつくってくれんかということがこれまであったらどうかということなんです。

とにかく、やはり厳しくなっていく時代の中でも、大川市が取り残されないように、それらの、いわゆる大企業の人々をはじめ、民間企業の方々に関心を持ってもらう、そして、この場所で何かできないかなという思いを持ってもらうことがまずは第一歩じゃないかなという思いの中でやっております。

「大川の駅」というのは、いわゆる日常生活品を扱うショップでもなければ、野菜売場ではないということでもあります。再三繰り返していますけれども、やはりこの場所にたくさんの方が集まることによって、市内の事業者の皆様、そして、大川ら辺の事業者の皆様がそこでビジネスのチャンスを見つけていただくような場所にしていきたいということでもあります。

同友会の話で、一つ、昨日、本会議が終わりましてから御連絡があって、ワン有明ということでイベントをやりたい。これは東京の企業の方ですが、国の財政支援がどうも受けられそうだとということで非常にうれしい、なくてもやるとはおっしゃっていましたが、そういう国の応援もいただけそうだとということで個別に御連絡をいただいております。

今から、空港の拡張も含めてであります、この地域がどんどん発展していく、そこに乗り遅れないようにしていくための中心拠点が「大川の駅」だということで、ひたすらにいいものになるように整備を進めていきたいと思っております。

なかなか御理解をいただけていないという御批判は御批判としてちゃんと受け止めて、いろんな場でお話をして御理解を求めていきたいというふうに思います。

#### ○議長（遠藤博昭君）

12番。

#### ○12番（永島 守君）

大分本音で語っていただきました。なかなか皆さん方の前に経済同友会というような言葉もなかなかお出しただかなかったことでも、少しは中身について、果たしてうまくいくかと、どこが協力してどういう企業が来るんだという、そういう言い方もございましたけれども、なかなかその辺のところを話してプラスなのかというのは、これはあるだろうと思えます。だから、できるだけ皆さん方に安心して情報の提供がなされるように、我々議会議員も

自らが意識の改革を図りながら、そして、我が子や孫たちが将来しっかりと生きていけるような、そういう時代をつくっていかねばならないというふうに思っております。

何度か今回の質問の中に森特命副市長に、3か月ほどになりますけれども、今の思いをというようなお話がございました。違った形で、私はまだまだ大川市は十分に御存じないだろうというふうに思っております。

大川のこの事業について、大体大まかな目を通していただいて、中身については十分に理解をいただいているものだと思っておりますから、この事業等について、できればこの議場の議員の皆さん方にも夢が持てるような、そういう誤解をされている方も数名おられるようですから、先ほど市長が言われるように、この駅は物を売るスーパーではないし、百貨店でもございません。魚と野菜を並べ、お土産を並べるような、それで果たして立っていくかというような、経営ができていくのかと、赤字じゃないかというような話も昨日ございました。しかし、そういうところではないと私は理解をいたしておりますし、また、そういう情報発信基地、そういう場所だと、大川市の市民の生活向上のために、そしてまた、給与所得を引き上げるために、底上げにつながっていくような地域連携した4県、先ほど観光連合の話をしましたけれども、この地域が連携して共に伸びていく、そして、市長が常々言われておりますように、互いの産物、意見をお互いが用いて共に進んでいきたいと思いますというのがこの地域でありますし、昨日、大川市の人口の話もございましたけれども、間違いなく、今回私も統一地方選挙が済んだばかりでありますけれども、次期の統一地方選挙においてはどうかと、3万人になっているのではないかなという思いがいたしております。ですから、そういうものも含めて、大川市の人口減少、大川市が500名毎年減っておりますけれども、柳川市においてはやっぱり人口が倍あるほどに、1,000名ほど人口減少が続いております。そういうこの地方はだんだん人口が減少してまいります。今こそ将来に向かっての事業、これを進めていかねばならない。何でもかんでも悪いほうに取って、仮定の話で議会で、行政でやってみても何の意味もございません。やれるんだと、成功するんだと、みんなが力を一丸となってやっていく事業こそ、私は成功の道だというふうに思っております。

話す時間がなくなりますからあれですけれども、森副市長、ひとつその辺のところを含めましてお話しを願いたいと思います。

**○議長（遠藤博昭君）**

森副市長。

## ○副市長（森 寿貴君）

先ほど来から賛成だ、反対だみたいなやり取りがよく聞かれるんですけども、私個人的には、賛成でも反対でもない、判断ができないというような声も結構あるんじゃないのかなと思っています。その一因としては、これはもう私の反省なんですけれども、まだ広域的地域振興拠点機能として具体的にどういった機能というふうなものがあるのか、それを十分に描き切れていないというのがあるんだろうと思っています。

今、今年度ですね、そのものづくり産業の中の代表的な事業者の皆様の方から人材を募りまして、ワークショップだったりとかをしまして、そこの作り込みというふうなところをしていきますけれども、そういったところのアドバイザーの中から、例えばですけれども、デジタルサイネージみたいなものというのがあると。それは自由にそういったものをクリックだったりとかをすると、そういったときに、より多くクリックされた、例えば、家具だったりとかいうふうなものの情報は、例えば、事業者だったりとかのほうに即時連携されますと、例えば、ショールームに置くべきものだったりとかというふうなところのラインアップが変わってくると思うんですよね。例えば、そういった具体的な、どういったいいことがあるのかというふうなところについて、どんどん我々のほうで情報発信していくと、そこがすごく大事なんじゃないかなというふうに個人的には思っているところでございます。

また、私もこの3か月弱の中で、この事業というのは一から勉強する中で、正直なところ疑問に思うところも確かにありました。その道の駅というのは通常道の道路沿いにあるもので、なぜあそこに造るのかとすごく疑問だったんですけども、今私としてはすごく納得感がありまして、なぜならば、「大川の駅」というのは、広域的な産業、観光の振興の拠点なんですよ。あの場所というのは、大川が発展してきた筑後川とまさに有明海というところのつながる感潮区域、満ち潮というふうなところ、それが水運として大川の産業の発展というふうなところと培ってきまして、若津だったりとかも見えます、昇開橋も見えますし、なので、ああいった場所にもものづくり事業者だったりとか皆様が集まっていただければ、大川の歴史というふうなところにも思いを馳せつつ、将来だったりとかにも思いというふうなものをつなげていただけるような場所になり得るんじゃないかなと思っているところでございます。

そういった疑問点みたいなものを我々のほうでもウェブサイトだったりとかに、例えば、特集のページだったりとかもつくりまして丁寧に解説していくとか、Q&A方式であったり

とかで一問一答でなるべく分かりやすく説明していくとか、そういったことがすごく大事になってくるんじゃないかなというふうに思っておりますので、引き続きすぐ取りかかってまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

12番。

○12番（永島 守君）

ありがとうございます。非常に森副市長の話は本当によく分かりやすいです。ですから、機会を捉えてそういうお話をぜひやっていただきたいと。そういうことも森特命副市長に与えられた責務ではなかろうかなというふうに思っております。

なかなか大川で生まれ育った人というのは目線が違うんですね。ですから、今回の質問の中にもありましたけれども、よそから見た目というのも感じる目、当然として大川市のこの「大川の駅」は、この有明海沿岸地域の核となるような、そういう施設を願っているわけがありますから、やっぱりどうしても違った角度から見る感想というのは大事なんです。ですから、特に国の官僚である、国からおいでいただいたそういう副市長でございますから、そういう観点においても、しかと機会を捉えながらお話をしていただきたい。まして、今日こうして私が質問通告いたしました中に、今までかつてなかったお話も少し中に踏み込んだ回答もいただいているわけでありますから、今後はやっぱり、まさに森副市長が言われるように、反対というよりも、分かり、理解ができていないというのが、私はそのとおりだろうと思っております。

いろんな形で、地盤改良等々についても、これは我々は素人でありますから、いわゆるそういう目的、目標に向かって建設するんであれば、それに従ってどういう改良が必要であるのか、何が無駄であるのかというのはまだまだ自主設計、いわゆる基本設計はできても、まだできていないわけでありますから、まずは地盤のそういう調査、それに基づいてどのような改良がなされるのが最適なのかというのは今から一つ一つ積んでいくわけでありますから、それを今聞かれても、一々の予算を尋ねられても、間違ったら大変なことでありますから、それは答えにくいであろうと私の想定するところであります。私は別にそういうお話は打合せしたこともなんもございませんけれども、多分そうであろうというふうに思います。

私も以前には建設業をやっておりましたけれども、全て分かるわけではございません。で

すから、できるだけそういう技術的な面については、これはコンサルタント等々にお任せする以外は、行政でもそこまで詳しい人はいないわけでありますから、事業課の職員においても、自主的に自分で答えようがないだろうというふうに思います。かつてなかった事業でありますから、特に慎重に行われるのは私は当然のことだろうというふうに思っております。

いろんなお話が昨日もございましたけれども、市長にお尋ねをしました。特命副市長にもお尋ねいたしました。残るのは橋本副市長でございますので、あわせて、2人からお話をいただきました。

今現在、昨日の質問等々について、それをぶり返すことじゃないですよ。等々について、今日の私の質問、これを併せて、今後どういうふうな形で市民の皆さん方に御理解をいただくか、これをできますなら少しお話をさせていただきたいというふうに思います。

**○議長（遠藤博昭君）**

橋本副市長。

**○副市長（橋本浩一君）**

なかなかですね、倉重市長、そして森副市長が立派な回答をされた中で、その後ということで、ちょっとハードル高いなどは思っていますけど、この3か月、森副市長が来られて、私の個人の肌での感覚、そして感想ですけれども、ここをよいしょしてもどうにもなりませんけど、やはりこれまで大川市役所、言っちゃいけませんけど、職員でここまでハイスペック、ハイレベル、私ちょっと初めてだなという感覚をこの3か月で持っております。

そういった中で、「大川の駅」をプロジェクトリーダーとして引っ張ってってもらっています。こんなことを言うてはいけないかもしれませんが、私が3月までやっていたように今もやっていたら本当にここまでは進んでいなかったろうと思います。やはり森副市長の外から見た目、そして、この若さ、そして、やはり国の方ということで、いろんな知見、これまでの経験が十分に、今でも私らの目から見れば出てきていると思います。ただ、たった3か月と思われるかもしれませんが、今後には私は大いに期待をしていきたいと思っています。

そしてまた、私の役目が何か陰に隠れたような感じで今なっておりますけど、市役所でいえば、25課ぐらいあって、1課をお任せしておりますけど、残る課は私が全てまだやっておりますので、そういった中で私はしっかりとやっていきたいと思っておりますし、昨日から出ています大川Rebuilding（リビルディング）事業、これは大川の駅整備振興課が直接やる事業ではございません。観光とか産業とか、いわゆるインテリア課、農業水産課、企画課、企業誘



致推進室、こういったところがこの「大川の駅」に向けて相乗効果をどう出していくか、そういう部分で役目を与えておりますので、それに関しては私もそれぞれの課の所管はしておりますので、しっかり森副市長とも連携を取って、「大川の駅」にも資する、そして、こっち側、まちのほうですね、大川市内でもいろんな市民の皆さん、そして事業主の方、こういった方に恩恵が回るようにしっかりと私も努めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

○議長（遠藤博昭君）

12番。

○12番（永島 守君）

橋本副市長ありがとうございました。今日はすらすらと答えていただいて、突然振りまされたけれども、そういうことでございます。

今回、森副市長、昨年暮れに、本当に前市長の鳩山市長が倉重市長共々国のほうに、優秀な方を大川市にぜひ送っていただきたいというようなことを急遽お願いに行かれたそうありますけれども、それが行かれたということをおは耳にいたしまして、結論が早かったなというところで市長に伺ったわけでありまして、今回しっかりと鳩山代議員もいろんな本音でお話をされて、そして、どういう方が来るかなというふうにも思っておりましたけれども、私も何度か森副市長とお話しする中に、なかなかはっきりした人だなというふうには思っております。できるだけ早期完成、開業できるように頑張ってくださいよということで当初から申し上げておりますけれども、これは職員の皆さん方も大いに期待されているだろうというふうに思います。

いろんな方々、議員、現在14名おられますけれども、その辺のところまで十分に理解をいただいている方とされない方、当然としてあるわけでありまして、言うならば、いろんなことを今後もございましょうけれども、こういう事情、初めての定例会を迎えて、こういういろんな意見、反対、賛成の意見がございましたけれども、大川市議会というのはいくるところでございます。ですから、こういう事情において、ぜひ早期の完成、開業ができますように、これからもさらに御尽力をいただきたいというふうに思います。

本日は「大川の駅」を中心に、企業、それからインテリア課長あたりがずらっと並んでいただいておりますけれども、私の質問時間は25分までですね。

そしたら、まず今までのやり取りをこうして皆さん方も後ろでお聞きになって、今後皆さ

ん方が、私は通告については市長から壇上で十分にお話をさせていただきました。

順序よく、今までの副市長2名、市長と3名のやり取りをいたしましたけれども、それをお聞きになって、今後どのような取組姿勢で意気込みを持ってやっていただくのか、一言ずつ、課長何名おってですかね、5名ですか、そしたら順次よろしくお願いたします。

**○議長（遠藤博昭君）**

永島インテリア課長。

**○インテリア課長（永島潤一君）**

インテリア課といたしましては、市内産業の育成ということでお答えをさせていただきます。

コロナの制限も和らいでまいりまして、業界の皆様と膝を交える機会も増えてまいりました。物価高騰などの社会情勢、それから、消費者の趣向などの変化が売上げに大きく影響を及ぼしている状況をじかに伺っておりますと、やはり基幹産業であるインテリア産業のみならず、地域経済、ひいては今後の市税収への影響を危惧するところでございます。しかしながら、厳しい環境でも着実に業績を伸ばしている企業がありまして、前向きな努力に対する相応の評価、それから支援が企業の活動の励みになると考えております。

本格化いたします「大川の駅」整備を背景に、新たに取り組む大川Rebuilding（リビルディング）事業という組織横断的なプロジェクトにおきまして、市内産業の生産性や収益性、つまり稼ぐ力の向上を目指しているところでございます。

現時点において、なかなか即時に効果が期待できる施策をお示しできないのが心苦しいところではございますが、今後とも競争の時代を勝ち抜くための政策形成に知恵を絞りまして、地域経済の持続的な発展を展望してまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（遠藤博昭君）**

鶴企業誘致推進室長。

**○企業誘致推進室長（鶴 恭太君）**

議員の答弁をさせていただきます。

大川市のインテリア産業をはじめ、農業、漁業といった基幹産業と新たな産業とが相互に刺激を受けるような土壌づくりが重要であろうかと考えております。その場がまさに「大川の駅」であり、その一つの手段として企業誘致があろうかと考えております。進出してくる

企業が地域産業に新たな気づきを与え、新たな産業を生み出していくのではないかと考えます。

そして、ここで「大川の駅」から情報を発信していく、そして、地域経済に好循環を生み出す施設、それが「大川の駅」になるのであらうと考えております。

そのために、新しい産業を生み出すために、まず、企業が何を求めているのかというニーズを把握し、起業しやすい環境や進出を考えている企業に対し幅広い業種に対応した優遇制度を整え、そして、税収の面からも、その企業で働きます方に対しまして、積極的に移住・定住していただけるような環境を整備していくことが重要であらうかと考えております。

企業の誘致や新たな産業を生み出すことは、雇用の創出、定住、さらには税収の増加につながるものであり、大川市の産業の活性化はもとより、ひいては環有明海経済圏域の構築と発展に寄与するものと認識しております。

企業の立地ニーズに対応した環境整備を図りながら、今後とも多種多様な多くの企業を訪問し、企業の立地意欲のタイミングを逃さぬよう企業誘致に努めてまいります。

以上です。

#### ○議長（遠藤博昭君）

甲斐大川の駅整備振興課主幹。

#### ○大川の駅整備振興課主幹（甲斐 衛君）

私のほうからは「大川の駅」整備のハード事業についてお答えをさせていただきます。

令和5年度から「大川の駅」の整備が本格化をしている中、ハード担当の主幹としましては、とにかく道の駅整備予定地の用地取得、これを早期に完了させていかなければならないというふうに思っております。そのためには、当然多くの地権者の方、または相続人の方々とお話をしながら、その方々の御協力をいただかなければなりません。現在、関係者の皆様には「大川の駅」整備事業に対します御理解をいただきながら、用地取得の協議を進めております。とにかく、道の駅整備予定地の用地を一筆漏れることなく取得をしないことには「大川の駅」を完成させることができないという意気込みで業務を進めております。

また、ハード事業にはそのほか、誘致以外にも地盤対策の検討、川の駅のかわまちづくり計画などなど業務がありますけど、いずれにしましても、「大川の駅」の早期完成に向けましてスピード感を持って取り組んでまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（遠藤博昭君）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光君）

お答えします。

既に政策決定しております「大川の駅」実現に向け関係課とも連携して進めておりますが、特に企画課、大川の駅整備振興課、インテリア課、企業誘致推進室の4部署が核となりまして、今同じ事務所内で、森副市長をはじめ、情報共有をしながら一丸となって進めていかなければならないと思っております。

いろんな部署が関わることによる相互作用で新たなアイデアを生み出すこともあると思いますので、今後も関係課と連携して熱意を持って進めてまいります。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭君）

岡大川の駅整備振興課主幹。

○大川の駅整備振興課主幹（岡 美詠子君）

私ごとではございますが、昨年途中から「大川の駅」整備事業のほうに直接携わらせていただくことになりました。ただし、「大川の駅」の構想が始まった段階で庁内のプロジェクト会議というものがございまして、そちらのほうには参加をさせていただいておりましたので、割と早い段階からこの事業のほうにはいろいろ手を差し伸べてとは変ですけども、やっておりました。その中で、それぞれ提案をとということがございましたので、私のほうも提案をさせていただいたということでございます。

まず、大野島という土地は、永島議員もおっしゃられましたとおり、筑後川が有明海に注ぐ場所、そして、そこはどのような場所かという、大川市の産業、そして歴史を育んだ筑後川が一望に見えるという場所にあります。その大川市の背景を知ることができる場所ということで、非常に立地としてはふさわしい場所ではないかと私は考えております。

それと、今年度行っていきます事業としましては、できるだけ早期に事業手法を検討いたしまして、運営事業者を募集していく段取りを進めていくということになります。

先月私は、「大川の駅」のサウンディング調査のほうに参加いただきました道の駅の運営を主にやっている事業者が運営している道の駅を実際訪ねてみました。そうしましたら、平日の昼間にもかかわらず、多くのお客さんが押し寄せているという、そういう道の駅でした。

「大川の駅」を成功に導くには、やはり確かな実力を持った民間事業者をどう誘致していくのかというのが一番の課題ではないかと考えております。それに向けまして、今年度速やかに事業を進めていきたいと思っております。

そして、最後になりますけれども、先ほどから市長のほうも申し上げておられました宝箱、これを早く完成させ、そして、先人の皆様が夢見られた要というものを実現していくべく邁進していきたいと考えております。

長くなりました。どうもすみません。

○議長（遠藤博昭君）

12番。

○12番（永島 守君）

ありがとうございました。時間を少し超過いたしましたけれども、本当に御協力ありがとうございました。

これにて質問を終わらせていただきます。御清聴、誠にありがとうございました。

○議長（遠藤博昭君）

以上で一般質問を終わります。

次に、議案第34号及び議案第35号の計2件を一括議題といたします。

これからただいま議題としております案件について質疑を行います。所定の時刻までに質疑の通告はあっておりません。よって、次に進みます。

次に、議案を所管する委員会に付託いたします。

お手元に配付いたしております議案付託表のとおり付託いたします。

次に、この際、お諮りいたします。明日6月24日から6月29日までの6日間は議事の都合により本会議を休会といたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、さよう決しました。

それでは、次の本会議は来る6月30日午前9時30分から開くことになっておりますので、念のため申し添えます。

以上で本日の会議は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

午後0時29分 散会